USHIO Lighting—Edge Technologies

「光」でできること、「光」だからできること

高精度化、超微細化、低温処理化がどんどん進む技術革新の真っただ中で、
光がこれらのボトルネックを解決する新しい有効な手段として、
さまざまな分野で重要な役割を担いはじめています。
これからの光創造企業集団 USHIOに、どうぞご期待ください。

インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。
http://www.ushio.co.jp

『USHIO サステナビリティレポート 2008』に関する
ご意見、お問合せは下記までご連絡ください。

発行：ウシオ電機株式会社
管理総括　環境マネジメント統括室

〒100-8150　東京都千代田区大手町2-6-1
TEL(03)3242-1892　FAX(03)3242-0695

この印刷物は、FSC認証紙を使用し、植物油100%の「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。
また、省資源化（フィルムレス）につながるCTPにより製版しています。

08-06-10000D ①

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

サステナビリティレポート
Sustainability Report
2008

USHIO Lighting—Edge Technologies

USHIOサステナビリティレポート 2008

CONTENTS

ウシオのサステナビリティの基盤となる考え方・・・1
トップメッセージ・・・2
2007年度のトピックス・・・4

CSR経営
ウシオのCSRの考え方・・・6
コンプライアンス・・・7
内部統制・・・8
IR活動・・・9

経済性報告
中期ビジョン・・・10
主な経営指標の推移・・・11
連結決算・・・12

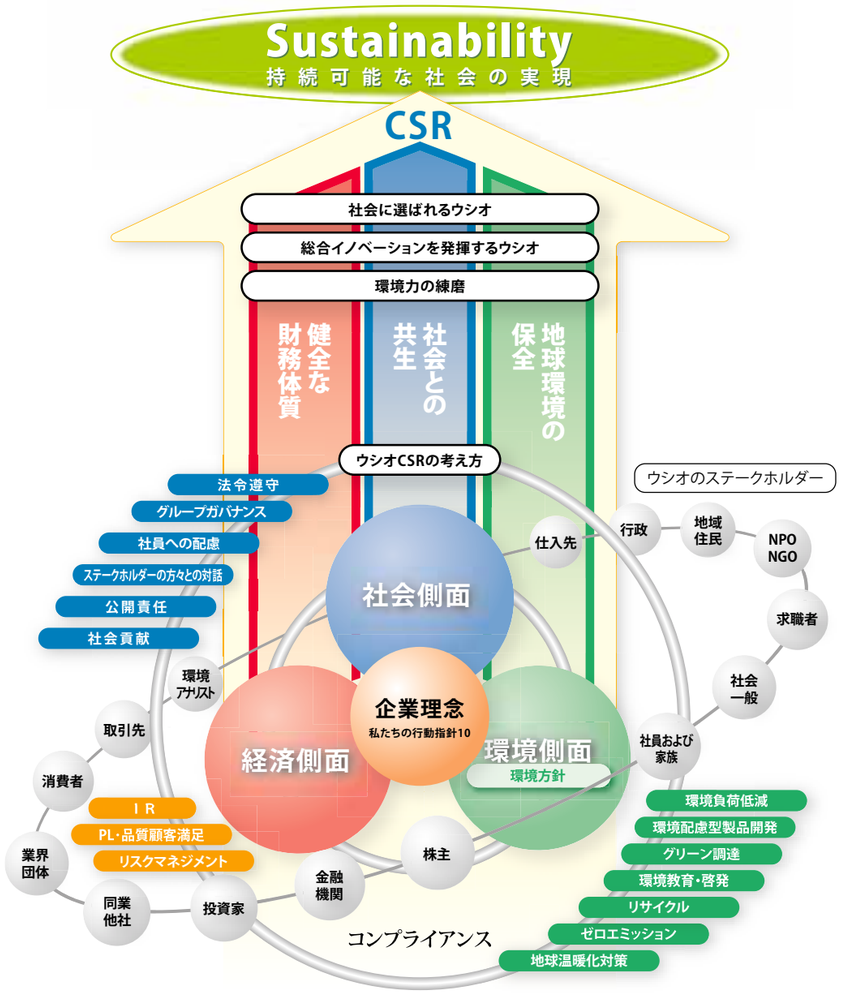
社会性報告
社会と共生し、信頼される企業を目指して・・・13
品質保証・・・14
人事・・・16
環境コミュニケーション・・・17
社会貢献・・・18

環境報告
2010年ウシオ環境ビジョン・・・20
環境教育・・・24
グリーン調達・・・25
環境配慮型製品開発・・・26
ゼロエミッション・・・27
地球温暖化対策・・・28
環境リスクマネジメント・・・30
環境パフォーマンス・・・31
環境会計・・・32
サイトデータ(生産)・・・33
サイトデータ(非生産)・・・36
第三者意見・・・39
第三者意見を受けて／編集方針・・・40
会社概要／主要グループネットワーク／事業概要・・・41

〈対象〉お客さま、株主、投資家、お取引先、社員、地域社会、行政、NGO・NPOなどのステークホルダーの方々
〈報告対象範囲〉当社全事業所および国内外のグループ会社情報の掲載
〈報告対象期間〉2007年4月1日～2008年3月31日(一部2008年6月までの報告を含む)

USHIOの目指すサステナビリティ

ウシオは、経済・社会・環境のトリプルボトムラインを基盤にサステナブル経営を強化して「持続可能な社会」の実現に貢献します。



ウシオのサステナビリティの基盤となる考え方

USHIO GROUP 企業理念

①会社の繁栄と 社員一人ひとりの人生の充実を 一致させること。
②国際市場において 十分競争力のある製品・サービスを 提供すること。
③優れた製品、新しい研究開発を通じ 進んで 社会に貢献すること。
④オープンで自由な企業活動を通じ 競争力を高め
安定利潤を確保すると共に 企業の社会的責任を果たすこと。

ウシオ電機およびウシオグループ社員のあらゆる活動の根幹となる企業理念は、創業から40年を経過した2004年度に、時代の変化によって鮮明になってきた社会的課題、「企業の社会的責任を果たすこと」などを軸とし、制定しました。第二の創生期と位置付けて新しい事業戦略や組織改革を再スタートさせています。

社会の一員として私たちの行動指針10

①私たちは、多様な個性と価値観を受け入れ、共働する会社を目指し、自己研鑽と自己改革に努めます。
②私たちは、革新的で、挑戦的で、スピーディーな経営に取り組み、会社としての永続的な発展に努めます。
③私たちは、すべての人々の基本的人権を尊重し、明るく安全快適な職場環境を作ります。
④私たちは、良質で安全な製品・サービスを適正な価格で提供し、公正・公平な取引を行ないます。
⑤私たちは、社会から理解と信頼を得られるように努めます。
⑥私たちは、法令を遵守し、社会的良識に従って、公正な企業活動を行ないます。
⑦私たちは、会社の定める規則や基準に従い、誠実に職務を遂行します。
⑧私たちは、環境保全と資源の有効活用に取り組みます。
⑨私たちは、積極的な広報活動を行なうとともに、第三者の情報の価値や権利を尊重します。
⑩私たちは、国際社会の一員として、それぞれの地域の発展に貢献します。

一人の誤った行動が、会社の基盤を揺るがすこともあります。あらゆる事業活動において、社会や環境などのルールに反する行動があってはなりません。この行動指針は、ウシオ電機社員一人ひとりが順法精神や高い企業倫理を持ち、企業理念に基づく行動のあり方を示したものです。

ウシオ電機環境方針

基本理念
ウシオは地球環境との共生が企業としての最重要課題の一つであると認識し、事業活動のあらゆる場面における、環境保全への取組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

行動指針
①国内外の法規制や環境上の規範の遵守はもとより、さらに自主的な基準を設定し、その実現に努めます。
②全事業領域において、廃棄物・有害物質の削減、省資源、省エネルギーおよびリサイクルを推進し、環境負荷の低減に努めます。
③環境に配慮した「光技術・光製品」の開発・提供に継続的に取組みます。
④化学物質や廃棄物による自然環境の汚染など、環境リスクの予防に努めます。
⑤環境保全への取組みについて定期的な監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
⑥社会の皆さまに、環境への取組みについての情報を提供し、対話と相互理解のもと、さらなる環境活動の向上に努めます。
⑦従業員一人ひとりが、環境保全のために果たすべき役割を自覚し、循環型社会の実現に向けて貢献します。

2005年3月1日
ウシオ電機株式会社
代表取締役社長(環境委員会委員長)
菅田史朗

「ウシオ電機環境方針」のほかに、各カンパニーおよびグループ会社においてもそれぞれ環境方針を定め実践しております。この「ウシオ電機環境方針」は、その最上位の方針として位置付けられ、グローバルに整合を図り反映させています。

いま必要なのは、地球市民という視点。知力、民力、環境力を結集して、イノベーションを進め、「クール・アース」に貢献を果たすとき。

代表取締役会長兼
ウシオグループ代表

牛尾治朗

グローバリゼーション

グローバリゼーションとは、国民性や文化の違いを相互に理解して世界に向かってオープンになることです。世界の多様性を認めて、地球市民として世界の人々とともに生きていく覚悟をもつことが大切です。

地球規模で考えるべき課題は数多くあります。気候変動などの環境問題はもとより、エネルギーや食料、水資源、貧困問題なども国際間の協力なしには解決できません。そのためにオープンに緩やかに共通の価値観をつくること、それが、まさにグローバリゼーションです。

多様性のなかに自分らしさを

多様性を認めるには、自らの位置を確かめることが肝要です。

ウシオグループのブランド価値の本質は、几帳面な完璧主義や現場重視の仕事から生まれる信頼性の高さにあります。例え見えなくても裏地までしっかり縫いあげるテーラーの良心が、結局は服を長持ちさせるのです。

ウシオグループの生産拠点が世界に広がっても、完璧主義と現場主義は揺らぐことはありません。時代の端境期にはさまざまな価値観が顕れるものですが、そうした時代にこそ、信頼性を第一とするウシオグループの真髄が証明できると信じています。

イノベーション

問題を解決する最強の手段は、イノベーションです。イノベーションには技術革新や経営革新、社会革新が含まれます。イノベーションとは、インベンション（発明）をアクション（行動）に移すこと。まさに行動が伴ってこそイノベーションなのです。

ウシオグループは、付加価値を創造する「知力」、社会との信頼関係を構築する「民力」、そして、環境負荷低減や省エネなどを推進する「環境力」を結集して、イノベーションを進めます。

環境先進性を生かす

私は、「グローバル・イノベーション・エコシステム（GIES）2008国際組織委員会」のメンバーになっています。地球環境問題の解決のために、科学技術への投資、情報交換と成功例の共有、成果の世界への普及、政府のリーダーシップの発揮、研究ネットワークづくりなどを呼びかけています。日本は公害とオイルショックの経験に学んで、世界で最も先進的な環境・省エネルギー技術を育ててきました。

ウシオグループも、先進的な環境技術を通じて「クール・アース」に貢献します。

『中期ビジョン』の重点事業戦略として、循環型事業展開を進めていきます。

代表取締役社長
（環境委員会委員長、グループ環境会議議長）

菅田史朗

私たちが地球上で活動を続けていくために、企業として地球市民として果たすべき課題が数多くあります。

ウシオグループは、創立40周年を迎えた2004年に新たな『企業理念』と『行動指針』を制定、翌年に『環境方針』を定めて、経済・社会・環境のトリプルボトムラインを基盤としたサステナブル経営を推進しています。その一環として、企業の社会的責任を自覚して「人間力」を高め、健全な財務体質、社会との共生、地球環境の保全をテーマにイノベーションを進めて、「社会に選ばれるウシオ」になることで、「持続可能な社会」の実現に貢献していきたいと考えています。

2008年には温室効果ガス削減を図る京都議定書の対象期間がスタートしましたが、気候変動をはじめとする環境問題はまさに地球規模のさしせまった課題です。企業の責務として、環境負荷低減や環境改善を根幹に置く経営が一層求められる時代となっています。

ウシオグループでは、品質管理の中に環境対応を取り込むなど早くから環境経営を実践してきました。これまでにも、省エネルギー化など環境負荷の少ない製品や製法の開発、リサイクル処理技術開発を含めた製品リサイクルシステムの構築、環境負荷の少ない原材料・部品を使用するグリーン調達、生産現場はもとより全事業活動での省エネルギー・ゼロエミッションの推進など、積極的な活動を通じて具体的な成果をあげてきました。

『サステナビリティレポート 2008』は、そうした取り組みを幅広くご紹介しています。

さらに、2008年4月公表の『中期ビジョン』の重点事業戦略にも「環境・資源を念頭に置いた事業展開」を掲げました。最近は、ランプ製造に欠かせないタングステン、モリブデン、クセノンガスなど希少資源の、将来的な入手難も懸念されています。そこで、それら材料の効率的な使用に努めるとともに、使用済みランプの回収・再資源化・適切処理を通じて循環型事業を進めていくことにしています。

もちろん、こうした取り組みはウシオグループだけでは達成できません。調達・生産・販売・サービスにわたるサプライチェーンを通じて実効を高めていくには、お取引先との連携が不可欠です。有害物質の排除や代替品への転換でも、自社での技術開発や管理を超えて関係先との協力が欠かせません。

そうした企業課題を認識し、経営者である私自身が「持続可能な社会」のために何をすべきかということを正面から考えて、お取引先、関係先とのコベネフィットを基本に「環境と経営」を両立させて、ウシオグループの企業価値を一層高めていきたいと考えています。

これからも、みなさまの一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2007年度のトピックス

環境に配慮した製品で、市場ニーズへの対応に取り組んでいます。

ウシオグループは、地球環境問題に対する取り組みとして、ランプの長寿命化・性能の向上、特定有害物質の不使用・使用削減、さらなる省エネルギー化など、市場のニーズへの対応に取り組んでいます。

SCM(サプライチェーンマネジメント)の視点で、製品の省エネルギー対応、廃棄物対応などに取り組み、製品を通じての経営と環境の一体化を目指しています。

■ 半導体成膜工程でウェハを効率的に加温するハロゲンランプ

ウシオは、半導体や太陽電池の成膜工程で使用する熱処理装置のヒーター用ハロゲンランプで、消費電力を30%削減できる新技術を開発しました。これまでは1本のランプに1つのフィラメントが入っていましたが、中空のランプ内の形状を工夫することによって、3つのフィラメントを入れ、中央と左右を別々に異なる温度で加熱するよう制御でき、効率的に加温することが可能になりました。また、半導体基板などの熱のムラを防いで歩留まりの向上が見込めます。

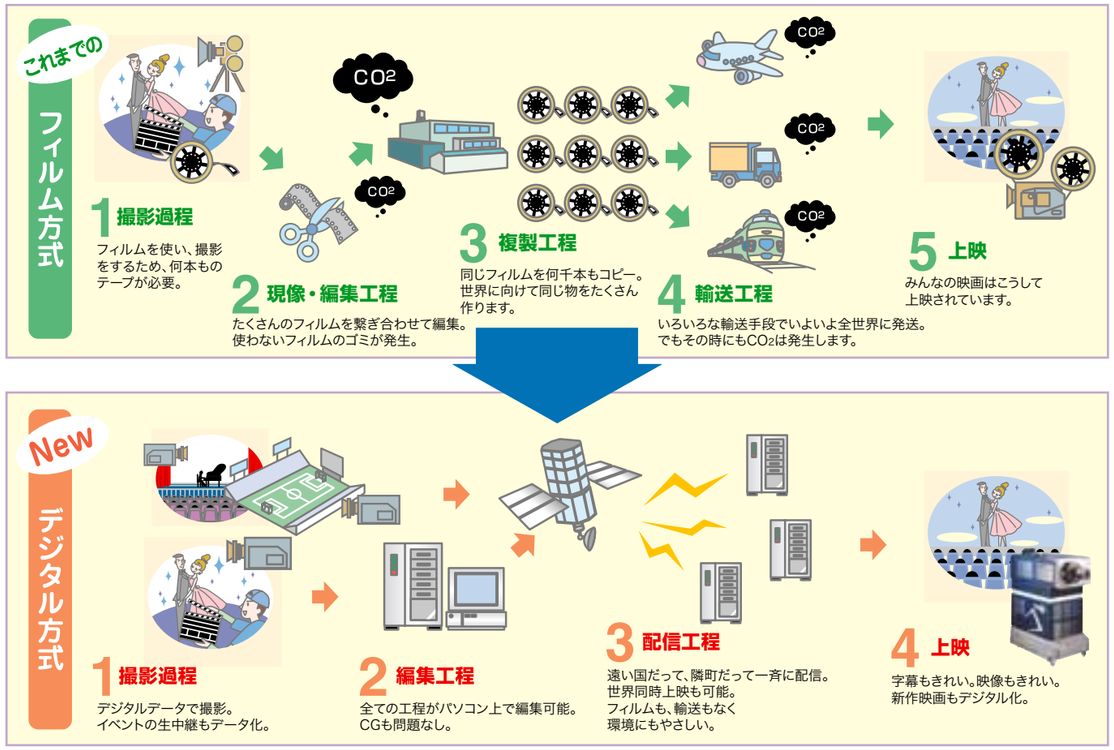
マルチフィラメント・ヒータ®

■ 環境にやさしいデジタルシネマの普及拡大

クリスティ・デジタル・システムズ(アメリカおよびカナダ)が進めるデジタル(フィルムレス)シネマ映写機の普及促進のためのビジネススキームが軌道にのり、2008年3月期の累積設置台数は、北米を中心に4,000台を超えました。

従来のフィルム方式では、製作の終わった映画フィルムを世界各地で同時上映するために多数本のフィルム(映画1本当たり約50kg)に複製し、輸送する必要があります。デジタル化された映像信号は、より軽量、省スペースの磁気テープ、またはICチップに保存され、また、通信回線を用いて世界各地の映画館へ配信することも可能です。従って、フィルムの複製、輸送の過程で排出されるCO_2を削減することができ、環境負荷低減に貢献しています。

デジタルシネマとフィルムシネマのCO_2排出の比較



■ 集光効率アップで省電力、ミラー付きハロゲンランプ

店舗などで展示された商品を美しく見せるハロゲンランプには、地球環境問題に対する意識の高まりから、効率アップ、省エネ、コストパフォーマンスが求められています。ウシオライティングの新製品ミラー付きハロゲンランプ「ダイクロハロゲン“ADVANCE”」は、新設計のコンパクトなフィラメントの採用による高い集光効率、新設計ミラーの採用による高効率の光の利用により当社従来品に比べ、約25%の電力削減と約10%の小型化を実現しました。また、輪郭の美しいグラデーション配光に仕上がっています。

ダイクロハロゲン“ADVANCE”シリーズ

■ 特定有害物質不使用、水銀フリーの希ガス蛍光ランプ

ランプの長寿命化、性能の向上と並んで、材料に特定有害物質を使わないなど、環境に配慮した製品のニーズも高まっています。ウシオライテングが開発した水銀を使用しない「希ガス蛍光ランプ」は、ウシオ独自の光技術を基盤に、電極構造、発光管製造、クセノンガス封入技術を駆使して、紫外線放出をほぼゼロにし、照度安定など高品質の光を実現しました。

希ガス蛍光ランプ「XEFL®(ゼフル)」

ステークホルダーの方々とともに環境活動を進めています。

ウシオグループは社会的責任を果たすための活動として、グループを挙げて環境活動に取り組んでいます。

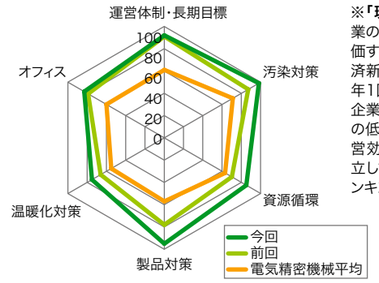
■ グループ一丸となった環境活動の成果 ～2007年度日経環境経営度ランキング(第11回)～

日本経済新聞社が行う「環境経営度調査」※で、ウシオ電機は前年の78位から、2007年度は21位にランクされました。

ウシオの活動は、6つの評価項目(運営体制・長期目標、汚染対策、資源循環、製品対策、温暖化対策、オフィス)全てで前回評価結果を上回りました。グループ一丸で取り組んでいるEMS活動、環境教育、現場の省エネ推進、グリーン調達、製品アセスメントなどといった日常の活動成果の表れと考えています。

今後も、地球温暖化などの取り組みを充実していきます。

■評価結果



※**「環境経営度調査」**…企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、日本経済新聞社が1997年から毎年1回実施している調査で、企業が温暖化ガスや廃棄物の低減などの環境対策と経営効率の向上を、いかに両立しているか評価し、そのランキングを発表している。

■ 環境マネジメントシステム(EMS)部門で受賞 ～第7回リコーグリーンパートナー賞※～

2008年2月、リコーグループの環境保全活動に大きく貢献した仕入先を表彰する「グリーンパートナー賞」のEMS部門で、ウシオ電機本社が表彰されました。2006年度から公募となり、環境活動の実態やその成果、改善状況などが具体的に審査されます。今回は特に廃棄物の有効利用率向上につながる活動や、社員一人ひとりの省エネ活動とその実績などが評価されました。

これからも、より良いパートナーを目指して活動していきます。

※**リコーグリーンパートナー賞**:リコーグループのグローバルな事業活動に関わる全ての関係者をグリーンパートナーと位置付け、効果的かつ継続的な環境保全活動を推進し、自社の改善あるいはリコーグループへの貢献度が顕著な仕入先を表彰するもの。

■ 環境問題を扱う国際会議をサポート ～「第33回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)」～

2007年11月、ASEAN諸国10カ国57名と日本の経営者64名が出席して開催された「ASEAN経営者会議」。2006年の全体会議で「21世紀環境経営の提言　日本とアセアンの役割」と題したスピーチを行った社長の菅田が今回はセッション議長を要請され、「エネルギー・環境問題への域内協力」をテーマに世界各国の取り組みを紹介し、活発な議論を誘導しました。

CSR経営

ウシオのCSRの考え方

- 法令を遵守し、法令以外の一般的な規範、公序良俗を守り、社会に対して責任ある事業活動を行います。
- 環境保全の取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。
- お客さまや株主をはじめとするステークホルダーとの対話を推進し、社会からの信頼を得るよう努めます。
- 適切な情報開示を行い透明度の高い経営を実施し、社会からの信頼を得るよう努めます。
- 地域社会の一員として、地域に貢献するとともに、地域社会との共存共栄に努めます。
- 社員の人格と個性を尊重し、働きやすい職場環境の整備に努め、会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させます。

単なる法令の遵守にとどまらず、社会的規範や一般的な良識に則り、信頼できる企業を目指しています。

主な組織と役割

コンプライアンス委員会
(行動指針および各種法令遵守の推進)

J-SOX委員会
(内部統制制度の導入のための企画立案、各種業務の文書化と有効性評価および是正を推進し、内部統制制度を実現)

人事制度委員会
(人事制度、人材開発手法、社内教育体制の見直しと改革)

PL委員会
(製造物責任(PL)リスク対応に備えた製品情報などの一元管理とPLクレーム対応)

安全保障輸出管理委員会
(「ウシオ電機輸出関連法規遵守の社内規則」に定める輸出管理)

環境委員会
(環境方針、行動指針にもとづく環境推進)

グループコミュニケーション委員会
(グループ内情報の共有化と浸透、対外情報発信強化など活動の企画・運営)

主な制度・規定

ウシオヘルプライン制度
(国内ウシオグループの全社員が職場における法令違反や企業倫理違反などの行為を直接相談や通報できる外部窓口の設置)

リスク管理規定
経営危機管理規定
ウシオ電機輸出関連法規遵守のための社内規則
内部情報管理および内部者取引規制に関する規則

企業経営の透明性を高め、グループ全体を統治していくための体制や基準などを作り、それらを徹底して実行するための基盤作りを行っています。

適時に公平な情報を、継続的に開示することで、ステークホルダーの方々との信頼関係を構築します。

主な情報開示手段

有価証券報告書
ANNUAL REPORT
決算報告書　PRISM
技術情報誌　ライトエッジ
サステナビリティレポート
ホームページ　USHIO GLOBAL HOME
(個人投資家向け「5分でわかるウシオ」、お問い合わせコーナーなど)
アナリスト向け説明会・工場見学会の随時開催
JPCA、SEMICON JAPANなどの展示会への参加

Question
法を守り、社会常識に則った活動をするために、どのような施策を行っていますか?

Answer
「私たちの行動指針10」を制定するとともに、コンプライアンス教育を実施しています。

活動の指針と目標

法令や企業倫理の遵守のための従来の活動に加えて、企業としてのより実効的な内部統制や輸出管理の実施が一層求められる社会環境になりつつあることをふまえ、ウシオにおけるコンプライアンス経営体制の一層の強化を図っています。

活動の概要と成果

2007年度は、コンプライアンス経営の範囲をウシオ単体からグループへ拡大するための準備期間となりました。また、継続的な教育の実施、さまざまな規程の強化などコンプライアンス体制強化のための施策を行いました。

✔「ウシオグループ行動指針」をグループ全体へ

ウシオ単体の「私たちの行動指針 10」をグループ会社にも準用していますが、これを正式にウシオグループのものとして発展的に改訂するための準備作業を行いました。ウシオグループとして遵守すべき事項をコンプライアンス委員会で検討し、2008年度以降の公布を目指しています。

✔ 役職者以上にコンプライアンス教育を実施

2006年度は、部室の次長以上の役職者を対象にコンプライアンス教育講習会を開催しました。2007年度は課長・課長代理および専門職の役職者層を対象に、コンプライアンスの目的・必要性や役職者の役割に関する教育講習を実施、8月から9月にかけ、6日間延べ11回にわたり、コンプライアンス委員会が独自に作成した資料を用いて実施しました。

また、役職者への昇格試験を初めて受験する社員対象のスクーリングに、コンプライアンスおよび安全保障輸出管理の教育講習を追加しました。

✔リスク管理・危機対応を一層推進

これまでリスク管理および危機対応は、コンプライアンス、環境、品質、財務、法務、災害、情報および輸出管理などの分野ごとに、それぞれの担当部署において規則やガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成など運用に向け取り組んできました。2007年9月には、全ての部署で、リスクの管理および危機への対応を一層推進するために、「リスク管理規程」および「経営危機対応規程」を制定しました。

✔ 金融商品取引法の遵守体制構築

金融商品取引法の遵守体制構築プロジェクトを立ち上げ、同法の背景、「内部統制報告書」の内容、業務内容やフローの文書化、ウシオとしての対応について全事業所で説明会を実施し、遵守体制を構築しています。

✔ 輸出関連法規の遵守体制の強化

「輸出関連法規遵守のための社内規則」に従って、安全保障輸出管理委員会が中心となり輸出関連法規を遵守して来ています。

2007年度は安全保障貿易管理説明会《適格説明会》をはじめ関連する研修会へ執行役員や役職者、管理責任者および事務担当者など多くで参加し、実務に反映させ安全保障輸出管理体制をより強化しました。

活動の現場から

「嘘は泥棒の始まり」と子供に諭すことわざがありますが、この精神がコンプライアンスの源と思っています。個人個人が立場や状況の違いに左右されず、誠実であり個々の小さな約束やルールを守る事がコンプライアンスの原点になり、よりよい風土が生まれてくると考えています。ウシオグループ一体でCSRやコンプライアンスを考え実践できるよう注力していきます。

安全保障輸出管理委員会
コンプライアンス委員会
諸岡　勝

Question
ウシオ電機では、投資家の信頼を得るため、どのような体制をとっていますか？

Answer
財務報告にかかる内部統制システム構築を行い、内部統制と情報開示を充実させ、企業経営の透明性を高めています。

内部統制

活動の指針と目標

単に法律への対応を目的とした内部統制の是正・改善のみでなく、全グループ的なリスク管理の取り組みととらえ、内部統制の強化を通して、弱点の可視化・改善を図り、事業上のリスクの重要性を再認識し、リスクを顕在化させ、経営品質を高めていきます。それにより、投資家の信頼を獲得していきます。

活動の概要と成果

✔ 内部統制プロジェクトチームの立ち上げ

2006年5月に新会社法が施行され、また2009年3月期からは金融商品取引法（J-SOX法を含む）が適用されるなどの法制化を背景に、上場企業には「内部統制システム構築および充実」が求められています。ウシオ電機では、財務報告にかかる内部統制システム構築のため、2007年4月に管理総括担当取締役をヘッドとする専任者3人および各カンパニーおよびグループ会社メンバーの兼任者による『内部統制プロジェクトチーム』を立ち上げて取り組みを開始しました。

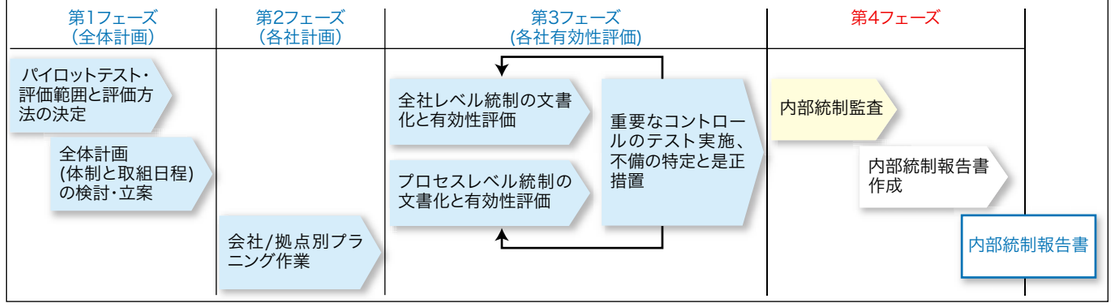
✔ 内部統制の文書化推進

プロジェクトは、内部統制システムの評価対象の選定、現状調査、文書化、整備状況・実際の運用状況の評価など、1から4までのフェーズごとにスケジュール化し、第3フェーズでは、プロジェクトメンバーによる定期的な会議体を通して業務フローチャートの作成や業務手続の文書化、コントロール・マトリックスを作成した結果、現状業務での内部統制手続の明確化、潜在するリスクの洗い出しを行いました。

✔ 状況評価の実施

第4フェーズでは、実際に業務を遂行している現場と協働し、現状業務における内部統制手続と、あるべき内部統制手続との比較検討を行います。これは、「整備状況評価」、「運用状況評価」と呼ばれ文書化された内部統制が実際に有効に運用されているか否かを、設計上、実際の運用上の観点から検証・評価を行うもので、財務報告書の信頼性向上、管理・統制が弱い部分の改善につながるものです。

■内部統制評価作業と準備作業



活動の現場から

企業価値・企業品質向上を目指した内部統制への取り組みは、企業としての実態をより正確に評価できる指標として投資家にご提供できると考えています。

業務改革IT推進室
久保田　純

今回の活動を活用し、業務の標準化にトライしながら効率的な業務活動につなげられると考えています。

J-SOX委員会
山崎　直美

Question
IR活動の中で、どのようなことを重要視していますか？

Answer
ステークホルダーの方々に、事業内容やビジネスモデル、経営上の強みを正しくご理解いただくことです。

IR活動

活動の指針と目標

株主や投資家の方に対し、投資判断に必要な情報を適時かつ公平に継続して提供することで、企業価値向上に貢献することを目標にしています。また、トップマネジメントが積極的にIR活動に参加することにより、投資家と情報交換を行う、双方向のコミュニケーションを目指しています。

活動の概要と成果

国内外の株主や、投資家に対しては、直接訪問したり、投資家向けカンファレンスなどの機会を利用して、トップマネジメントが積極的に事業の説明を行っています。個人投資家に対しては、ウェブサイトを利用したわかりやすい情報提供を心がけるなど、対象ごとに適切なIR活動を行っています。

✔ 海外機関投資家・株主訪問を実施

2007年7月には、トップマネジメントが海外の投資家を初めて訪問。投資家に直接お会いして事業内容を説明したり、経営に関する有意義な情報交換も行いました。

ボストンの海外投資家を訪問

✔ 個人投資家への情報発信
～ウェブサイトを一新～

IRツールとしてのウェブサイトの役割を見直し、個人投資家の方にも当社の事業内容をよりよく理解していただけるよう努めています。「5分でわかるウシオ」のコーナーでは、取り扱い製品やマーケットシェアについてわかりやすくお知らせしています。

「5分でわかるウシオ」
http://www.ushio.co.jp/jp/company/about/

✔ アナリスト向け工場見学を実施

2007年10月、アナリストや機関投資家に対し、当社製品に対する理解を深めていただくため、ランプ製造のメイン工場、播磨事業所の見学会を実施しました。

播磨工場見学会

活動の現場から

事業や業績についてよりよくご理解いただけるように、年間約250件の来社取材とスモールミーティングに対応する一方、トップマネジメントによるIR活動を実施して、国内外の株主や投資家との関係強化を図っています。2007年度に初めて実施した海外の投資家訪問は、多くの機関投資家と直接意見交換を行う貴重な機会ともなりました。

広報IR室
小林　千絵

中期ビジョン

ウシオでは、3年後に到達すべきグループの姿を、毎年、中期ビジョンとして発表しています。2008年4月発表の新中期ビジョンでは、下記のような重点事業戦略を掲げ、売上高1,900億円、営業利益285億円、ROE10%以上を目指します。

1 デジタルシネマプロジェクタ(DCP)事業の多角的普及促進

グループ会社のクリスティ・デジタル・システムズ(アメリカおよびカナダ)では、北米を中心に4,000スクリーンを超える映画館にDCPを設置しました。今後は、全世界に波及するデジタル化のトレンドを確実にとらえ、北米以外の地域でも普及を促進していきます。

映像事業の中核となるデジタルシネマプロジェクタ「CP2000-ZX」

2 環境・資源を念頭においた事業展開

使用済みのランプを回収して材料を再利用したり、高効率な製品を開発して資源を有効利用することにより、環境と経営両方に有意義なサステナブル経営を目指します。

リサイクル技術を確立したショートアークUVランプ

3 データプロジェクタ用ランプの高シェア堅持

マーケットニーズに応える、新しい高付加価値製品を開発・提供し、シェアを堅持していくとともに、国内外での生産・販売ネットワークの拡大、生産性向上によるコストダウンを推し進め、収益性を向上させていきます。

4 LEDの事業展開

2008年1月に、赤外線LEDメーカーの「エピテックス」がウシオグループに加わりました。今後は、グループの固体光源事業の発展に、大きく寄与することが期待されます。

5 液晶・半導体・高精細プリント基板分野を支える製品の拡充

先端事業の市場ニーズに応える新製品を他社に先駆けて開発し、新しい市場を開拓していきます。

6 最先端露光事業(EUV)の開発強化

グループ会社のエクストリーム(ドイツ)は昨年、フィリップスEUV(オランダ)との業務提携を発表しました。また同じくグループ会社のギガフォトン(コマツとの合弁会社)でも、EUVの研究開発が行われており、グループでEUV光源の量産化を目指します。

次世代露光用光源「EUV」

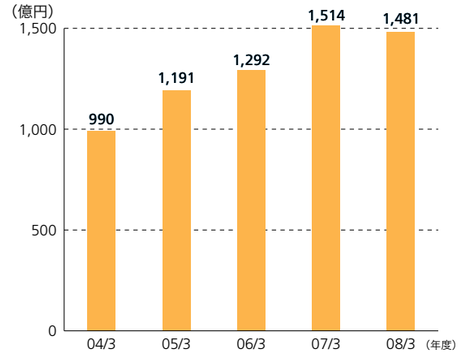
7 新製品・新規分野の事業化と既存製品の強化

多様化するマーケットニーズに対応した製品ラインアップの充実など、既存製品の競争力を強化していきます。また、光による皮膚治療器など、新規事業を本格的に拡大していきます。

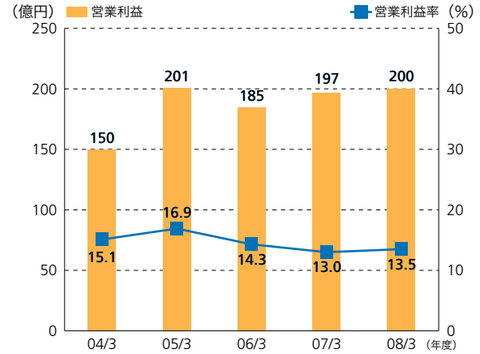
光線力学による診断「マイクロチップ血液分析装置」

主な経営指標の推移

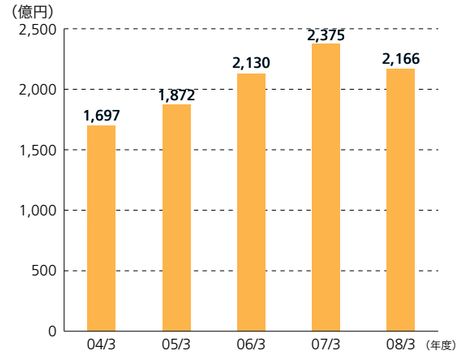
連結売上高



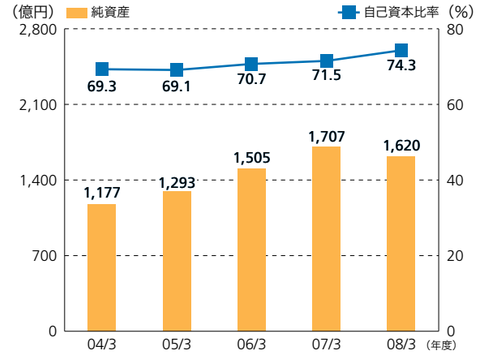
連結営業利益／営業利益率



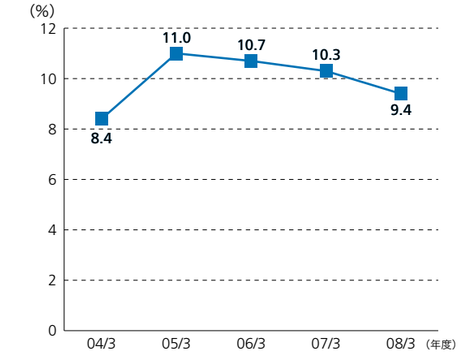
連結総資産



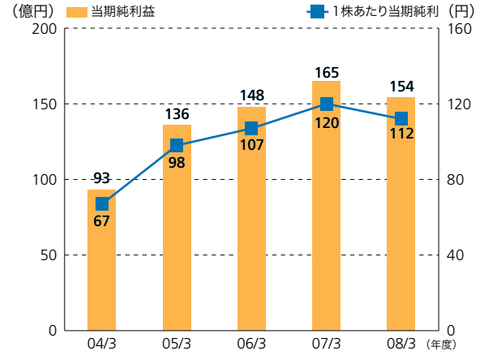
連結純資産／自己資本比率



連結自己資本利益率(ROE)



連結当期純利益／1株あたり当期純利益



※数字は全て表示数値未満の位を切り捨てて掲載しています。

連結決算

■連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科 目	第45期 (2008.3.31現在)	第44期 (2007.3.31現在)
(資産の部)		
流動資産	111,914	118,220
現金および預金	31,412	29,195
受取手形および売掛金	37,074	42,900
有価証券	2,587	6,567
たな卸資産	29,951	29,469
その他	10,890	10,088
固定資産	104,744	119,299
有形固定資産	38,227	36,142
建物および構築物	18,334	14,782
機械装置および運搬具	6,253	5,983
土地	8,849	8,805
その他	4,791	6,570
無形固定資産	2,994	2,142
投資その他の資産	63,522	81,015
投資有価証券	59,521	78,479
その他	4,001	2,535
資 産 合 計	216,659	237,520

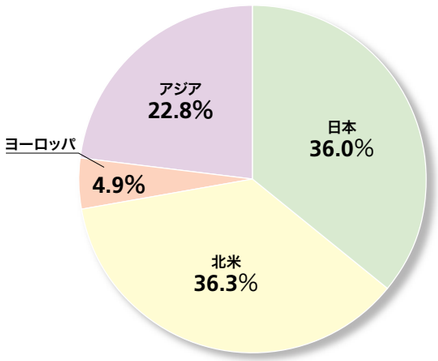
科 目	第45期 (2008.3.31現在)	第44期 (2007.3.31現在)
(負債の部)		
流動負債	38,159	45,076
支払手形および買掛金	15,214	21,220
短期借入金	8,672	6,865
その他	14,273	16,990
固定負債	16,407	21,706
長期借入金	2,962	—
繰延税金負債	10,146	19,496
その他	3,299	2,209
負 債 合 計	54,567	66,782
(純資産の部)		
株主資本	148,122	138,084
資本金	19,556	19,556
資本剰余金	28,371	28,371
利益剰余金	105,323	93,141
自己株式	△5,127	△2,984
評価・換算差額等	12,837	31,761
その他有価証券評価差額金	17,150	30,594
繰延ヘッジ損益	—	42
為替換算調整勘定	△4,313	1,124
少数株主持分	1,132	891
純 資 産 合 計	162,092	170,738
負債純資産合計	216,659	237,520

■連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科 目	第45期 (2007.4.1~2008.3.31)	第44期 (2006.4.1~2007.3.31)
売上高	148,148	151,495
売上原価	98,020	103,848
売上総利益	50,217	47,647
販売費および一般管理費	30,076	27,919
営業利益	20,050	19,727
営業外収益	5,835	6,510
営業外費用	2,566	1,092
経常利益	23,319	25,145
特別利益	0	246
特別損失	1,783	218
税金等調整前当期純利益	21,535	25,174
法人税等	5,889	8,430
少数株主利益	160	190
当期純利益	15,486	16,553

■ 所在地別売上高構成比(第45期)



※数字は全て表示数値未満の位を切り捨てて掲載しています。

社会性報告

社会と共生し、信頼される企業を目指して

ウシオグループでは、お客さま、地域社会、社員を通じて、社会とのコミュニケーションを充実させ、相互に信頼できる、よりよい関係を構築するための活動にも注力しています。

お客さま

製品の品質を第一に、サポートの体制を整えることで、お客さまとの良好な信頼関係を構築しています。

ランプ製品の検査

共同研究の場も提供する播磨事業所

地域社会

環境や文化的な活動を支援したり、積極的に地域社会の方々と交流する場を設けて、コミュニケーション活動を行っています。

地域の植林活動に参加

コミュニティのイベントの支援活動

社 員

やりがいのある職場、安全で安心して働ける労働環境を整備し、会社と社員がともに成長できる企業を目指しています。

社員教育風景

社長と歓談する社員

Question

品質の向上やお客さまのご要望に応えるために、どのような活動をしていますか?

Answer

- 品質ロスの見える化を進めるとともに、海外拠点への拡大を目指しています。
- お客さまのご要望を数値指標で管理し早い対応に努めています。

活動の指針と目標

品質ロスを半減するという品質力向上目標を海外拠点と協力して進めます。
お客さま満足度の数値管理を、海外拠点にも広げます。

活動の概要と成果

✔ ロス削減策〜「見える化」〜

社外クレームに関わる外部ロスと工程内不良に関わる内部ロスを合わせて品質総ロスと定め、これを半減する改革を進めています。

内部ロスの「見える化」の方策として、技術、QA、生産技術など関連部署が参画した製造工程巡回を行い、現場、現物、現実の3ゲン主義の視点で問題点の洗い出しと改善をカンパニー全体の活動と位置付け推進しました。海外生産拠点も含めた「品質ロスの見える化」を目標にしています。

✔ 品質をつくり込む人材の育成

ものづくりの安定を図るためには、個人の技能、技術品質の向上は不可欠です。TPM活動と連携してオペレーターが設備やものづくり、品質管理の基本を習得し、工程内品質のレベルアップを図る目的で、インテリジェントオペレータ初級・中級教育を開始しました。また、日本品質協会の主催する品質管理検定「QC検定」の受験を奨励し、60名が合格しました。

固有技能を有する人材の積極的登用を行いました。

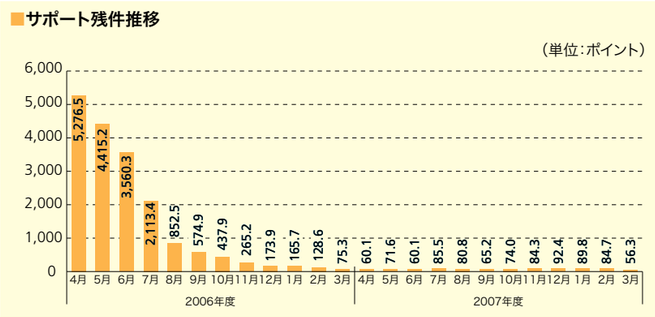
✔ 残件ポイントの管理でタイムリーな対応 〜お客さま満足度の数値管理〜

残件ポイントとは、「お客さまのご要望1件に対しサポートが完了しなければ、1ヶ月経過につき1ポイント加算」するものです。

<残件ポイント管理の具体例>

- 毎月経営トップが出席する会議にて、ポイント数を管理し、増加傾向が見られた場合その原因と対策をトップ含めて検討し常にタイムリーな対策を打ちました。
- 残件ポイントのカンパニー目標値を、サービス要員の個人業績目標として設定し日々の業務意識を向上させました。
- 日本・台湾・韓国のカスタマーサービス(CS)責任者が定期的に集まり、各国の課題を整理・共有するとともに対応方法を協議する場を設けました。

これらの施策により、目標値以下の数値で前年実績を維持することができました。



活動の現場から

中国やフィリピンの生産拠点へ品質キャラバンを実施。各拠点間の品質実績や改善事例を共有し、現地と日本との品質ルールの補完を進め、さらに品質管理の基本について日本から社内講師を派遣して講義をしました。

ランプカンパニー
品質マネジメント推進室
成田　光男

2006年度までの活動で、残件ポイントの削減は実現していましたので、2007年度はこの値を目標値以下で維持する事に注力しました。常に発生するお客さまの要望を漏らさず拾い上げ、タイムリーに対応するために各担当者の意識を向上させ、目標を達成することができました。

システムカンパニー
CS部門
菅野　孝幸

ウシオグループは、グローバルな視野で高品質の製品・サービスを提供するために品質向上に取り組んでいます。

ここでご紹介するのは、グループ会社の取り組みの一部です。

国　内

■ ウシオライティング株式会社　(兵庫県福崎町)

ウシオライティングの製品には、商業施設照明など、一般の消費者の方々の身近で使われる商品があります。

消費者・安全本位の企業活動を重要視しており、製品安全性の設計審査の強化、応急体制、報告体制の整備を進めています。

広い分野のお客さまのご要求に応えることを目的に、業界特有の品質マネジメントシステムへの対応を積極的に進めています。2006年には、航空宇宙産業における品質マネジメント規格(MSJ4000)を受審しました。2008年度は、半導体産業の品質アセスメント(SSQA)の受審に向けた体制の構築を予定しています。

■ 筑波ウシオ電機株式会社　(茨城県つくば市)

2007年度の品質目標は「再発不良の撲滅」でした。再発要因、なかでも部品加工の精度、繰返し作業、技能のレベルアップを主眼に見直しを行った結果、前期に比べて市場の返却数は3分の1に減少することができました。個々の部品の加工精度を丁寧に見直し、その作業を繰返し安定してできるように改善し、技能を定期的に見直す監査を実施してきたことが成果につながったものと考えています。今後も担当している前後の工程(仕事)の「深耕と拡張」に努め、対話による人材育成で安定した品質維持を目指します。

■ 日本電子技術株式会社　(神奈川県相模原市)

半期に一度、お客さまに「顧客満足度アンケート」をお願いしています。

昨年度の結果は、次の通りでした。

A社:上期に納期遅延に改善が見られ「納期対応」が1ランクUPしました。
B社:不具合や納期対応が評価され「協力姿勢」での評価が1ランクUPしました。
C社:「協力姿勢」での評価が1ランクUPしました。

特に次のようなことを心がけてきた結果と考えています。

- 毎月、納期の連絡をし、細かくフォローする。
- 協力姿勢については、色々な技術的協力を進んで実施する。

お客さまの声を聞き、より満足いただくために、今後も「アンケート」を続けていきます。

海　外

■ USHIO PHILIPPINES, INC.<UPI>(フィリピン:カビテ)

2007年度、蛍光X線分析装置を導入し、本格的にお客さまのRoHS対応要求にお応えできるように設備を整えました。

播磨事業所および中国地区のグループ会社に続いて、UPIでも、この装置を活用した受け入れ部材の含有化学物質検査を行う体制が確立できました。

今後ともお客さま要求を満足するため、環境も品質の一部と考え、不具合を流出させないようUPI一丸となって取り組んでいきます。

■ TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.<TULI>(台湾:竹北市)

TULIでは通常の抜き取り検査による製品監査だけでなく、品質管理のメンバーが生産ラインを巡回して生産中の製品を監査する"巡回検査"を実施しています。より源流に近いところで製品をチェックし、製造と一体となった監査体制をとることにより、品質改善のリードタイムを短縮してお客さまの要求品質に応えられるものづくりを進めています。

ULIより受け継いだ「基準・バラツキ・訓練」の品質キーワードの下、材料受け入れから出荷まで全ての工程での品質確保、改善に取り組んでいます。

■ USHIO (SUZHOU) CO., LTD.<USZ>(中国:蘇州市)

USZには、工場営業部門があることから、顧客サポートについて、営業部門と品質保証部門が一体となったスピーディな対応がとれる体制となっています。中国華東地区のお客さま向けに、OA製品だけでなく、プロジェクタ用光源などの顧客に対するサポートも行っています。2008年度からは、お客さまを訪問してランプの取り扱い説明などを行い、さらなる顧客サポートの向上を図っていきたいと考えています。

■ USHIO AMERICA, INC.<UAI>(アメリカ:オレゴン州)

オレゴン工場では、製品を扱う全てのスタッフに対して品質のトレーニングを継続的に実施しています。社員の一人ひとりがどのような形でウシオの製品の品質および生産性の向上に貢献できるか理解するのに、このトレーニングがとても役立っていると自負しています。

中間加工部品に関しては、品質部門での検査を実施して品質の安定を図っています。また、部品の品質度合いに合わせて抜き取りの本数を調整することで、コストを掛けない効率的な検査方法を採用しています。

■ USHIO SINGAPORE PTE LTD.〈USPL〉THAI OFFICE(タイ:バンコク)

生産工場(播磨事業所、UPIなど)と協力して、ランプの取り扱い方法についてのタイ語での説明会を実施しています。

タイ語の説明会資料

Question
ウシオの社員に対する基本姿勢について教えてください。

Answer
ウシオでは、創業以来、「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させる」企業を目指しています。

活動の指針と目標

会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させるために
- 教育環境を整え、組織を通じて自己実現できる自立した人材の育成を目指しています。
- 社員が安心して働くことができる職場環境の整備に努めます。

活動の概要と成果

社員が持てる能力を十分に発揮できるよう、個々の能力開発とともに、安心して働くことができる職場環境の整備を進めました。

✔ 職場風土改革を目指し、自立した社員の育成がテーマ

2007年度より組織の活性化・活気ある職場風土を目指し、階層別研修を充実させました。

部門リーダーには、組織の活性化を推進していくために、人間関係力の向上とオープンで公正な人事考課の実践を通して、社員一人ひとりのモチベーションの維持向上を図っていくことを目的に評価診断ならびに評価研修を導入しました。

企業のCSRについては、コンプライアンス・法令遵守・環境教育などを中心に、新人・役職者登用試験受験対象に導入しました。

職能研修としては、職務に直結したOff JT・OJTを各部門で運営し、専門知識のスキルアップだけでなく、モチベーションアップ・小集団活動を通じた改善活動、コミュニケーション、情報の共有化など、職場に密着した研修をサポート。

自己啓発援助制度では、多様な価値観、高度な専門知識、グローバル化、情報化に対応した通信教育などをラインアップし支援を行っています。

ウシオの教育研修制度

階層別研修	職能別研修
・新入社員研修 ・中途入社者研修 ・昇格候補者研修 ・新任役職者研修 ・幹部社員研修 ・評価者研修 ・GM研修 ・M研修 ・シスタープラザー研修	・営業職研修 ・技術者研修 ・製造技能研修
国際化研修	**自己啓発援助**
・海外留学(大学院) ・国内留学 ・海外トレーニー研修 ・海外赴任者語学研修	・通信教育 ・専門誌の斡旋 ・社内語学検定(TOEIC)

ウシオビジネススクールでは、これら複合的な教育研修制度により、組織を通じて自己実現できる自立した人材の育成を目指しています。

✔ 安心して仕事ができる環境・制度の整備

社員が仕事と家庭を両立できるよう職場環境の整備に努めており、育児休業をはじめとし、法定水準を上回る支援制度を整備しています。2007年5月には、次世代育成支援対策推進法に対応し、育児関連制度の充実・啓蒙などにより、「次世代認定マーク(愛称『くるみん』)」を取得しました。

2007年4月からは、新たに策定した一般事業主行動計画に基づき、ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)の啓蒙・職場風土醸成のためのセミナー開催など、次世代育成支援のさらなる充実に向けた取り組みを始めています。2007年度には、2名の男性が育児休業を取得しました。

また、高齢者雇用についても積極的に支援し、最長65歳までの再雇用制度による雇用延長制度(シニアパートナー、シニアエキスパート制度)があり、多数の社員が利用しています。

活動の現場から

グローバル競争の加速、少子高齢化、価値観の多様化…。働く人の環境は大きく変わってきています。このような中、ウシオで働く社員が、その能力を発揮し、充実した人生を送ることができるよう、働きやすく快適な、そして、働き甲斐のある環境づくりをサポートしていきたいと思います。

人事部
辺見　香

Question
環境コミュニケーションはどのような方針で行っていますか?

Answer
ステークホルダーの方々の特性に合わせた方法でコミュニケーションを実施し、双方向の理解を深めるよう努力しています。

活動の指針と目標

ステークホルダーの方々の特性を考慮した方法で双方向のコミュニケーションを実施します。

活動の概要と成果

✔ お問合せ窓口の新設
～ステークホルダーの方々～

2007年4月に、ウシオ電機ホームページ「USHIO Global Home」上にお問合せ窓口を新設しました。製品、採用、IR情報などお問合せの分野別に、担当部門がお答えしております。環境・社会活動についても、化学物質管理や廃棄物処理などに関するご質問、情報提供をいただきました。

✔ 地域環境コミュニケーション
～地域社会～

2007年8月、ランプカンパニーでは「ステークホルダーの方々とのコミュニケーション強化」の一環として、市役所や工場周辺の水利組合を訪問しました。当社のサステナビリティレポートを手渡しし、ウシオグループの環境活動をアピールしました。

✔ 環境調査の実施
～地域社会～

2007年8月、日本電子技術では、周辺の住民の方々を直接訪問し、2回目の環境調査を行いました。前回の調査時にご指摘いただいた点を改善し、良い評価をいただきました。引き続き地域社会との円滑な関係を築きながら活動してまいります。

✔ ウシオフェスティバル
～地域の子供たちと～

播磨事業所で開催した「ウシオフェスティバル2007」で、夏休みの子供たちを対象に、環境問題をもっと身近に感じてもらえるよう、「森林ボランティア活動」などの展示や地球環境に関するクイズ、ゲーム感覚で楽しめるCO_2排出量測定ゲームなど、親子で楽しめる催しを行いました。

展示の様子

✔ 環境交流会
～グループ企業～

2007年度は、ISO14001認証取得、環境経営情報システム(USHIO ECO-SYS)のグローバル導入、製品含有化学物質管理の統一などを目的として、全グループ会社と環境交流会を実施しました。各サイトの環境負荷データの収集、分析状況、製品含有物質管理体制構築際しての課題などの情報交換を活発に行うことができました。

海外グループ会社との交流会

活動の現場から

GREEN TIMES、UGNニュースの編集、発行を担当しています。グループ各社からの環境活動情報は、自分が活動する上でのヒントや刺激になり、情報交換を円滑に進めることの大切さを日々感じています。

環境マネジメント統括室
原口　恵子

環境を意識した活動が活発になり、今まで以上にコミュニケーション力が重要になってきました。社内外のイベント活動や環境情報の発信を通じて、環境がもっと身近なものになるように努力します。関わる全ての人が「愉しい」と感じる気持ちを大切に、今までにない取り組みや新しい発想をもって行動していきたいと思います。

ランプカンパニー
環境マネジメント推進室
伊坂　光恵

Question

社会貢献活動は具体的にどのように実行していますか?

Answer

社員一人ひとりが、社会を構成する一員として積極的に地域社会活動に参加しています。

活動の指針と目標

- 社員一人ひとりの社会活動を社内報などで紹介し、活動の輪を広げていきます。
- 社会貢献休暇制度の活用など、社員の積極的な社会参加を促進します。

地球の環境保護のために、身近な活動を積極的に推進しています。

✔ アース・ディ
～CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.～

2007年4月、グリーンチームは、「Earth Day Event」を開催、初めてのグリーンイベントとして、社員ボランティアが事業所周辺と近隣の公園の清掃活動を行いました。グリーンチームはこのような活動を通じて、今後も環境問題への認識向上を目指していきます。

✔ 団地合同ゴミゼロ運動
～ウシオライティング～

福崎町と工業団地内各企業は、毎年5月30日を「ゴミゼロの日」と定め、共同で工場周辺の清掃作業をしています。2007年度は管理部門を中心に参加し、ゴミ拾いや草刈りなどを行いました。

✔ 事業所周辺の一斉清掃活動
～ウシオ電機～

ウシオからは7名が参加

2007年6月、駒門工業団地内の企業と御殿場市が共同で行っている「駒門工業団地企業連絡協議会一斉清掃活動」に、御殿場事業所の社員が参加しました。参加各社がそれぞれの担当地域で広範囲にゴミ拾いを実施、周辺地域の環境美化に貢献しています。

（御殿場事業所）

✔ 環境月間の取り組み
～ウシオ電機～

2007年度は、6月の環境月間に合わせ、昼休みに食堂を利用して、地球温暖化の映像を流したり、省エネに関するパネルを掲示するなど、社員一人ひとりに環境意識の向上を呼びかける取り組みを実施しました。

（播磨事業所）

さまざまなイベントにボランティアとして参加し、地域コミュニティーとの交流を深めています。

✔ 高校生たちのソーラーボート製作をサポート
～USHIO AMERICA, INC.～

アーバイン工場のエンジニア達が、世界で最も大規模なソーラーボートコンテスト(開催地：南カリフォルニア)に出場する地元の高校生のソーラーボート製作を支援しました。このような機会を通じて、環境への認識をたかめたり、地域コミュニティーに貢献しています。

✔ 「県民参加の森林作り」に参加
～日本電子技術～

2007年7月、(社)かながわ森林づくり公社主催「県民参加の森林づくり」に、日本電子技術から3名が参加しました。天気にも恵まれ、大勢の参加者とともに下草刈の作業に汗を流しました。

✔ エレクトリックカーレースに出場する高校生チームをサポート
～CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.～

チームは「ベスト技術設計賞」も受賞

電気自動車のレース「EVCOエレクトラソン」に参加する地元の高校生チームのスポンサーを務めています。2007年も資金援助のほかに、部品を提供し、学生達がエンジニアリングについて深く理解できるようアドバイスを送るなど、さまざまな面でサポートし、レースでも好成績を修めました。

✔ 森林ボランティア活動
～ウシオ電機～

2008年3月15日、「ひょうご森の倶楽部」の森林ボランティア活動に、播磨事業所の4名が参加しました。

これまでの活動で作った遊歩道「くりのみち」に沿って、“栗の苗木”30本を植樹。花と実のある明るい森づくりを目指しています。

（播磨事業所）

✔ ユナイテッド・ウェイキャンペーン
～CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.～

期間中に行ったイベントの様子

2007年も恒例のユナイテッド・ウェイ※キャンペーンを実施しました。1週間のキャンペーン期間中に、前年を上回る計37,946CAD(約430万円)の基金が全社員から集まり、この基金は、食物や衣服の提供、避難所の運営、無料医療サービスなど共同体を支える活動に役立てられます。

※**ユナイテッド・ウェイ**：地方共同体でボランティアやNPO活動の資金源として大規模に寄付を集め配分する非営利団体。

✔ 「世界の子どもにワクチンを」運動に参加
～ウシオ電機～

2007年9月から翌3月まで、ペットボトルのキャップ回収を行いました。回収されたキャップはリサイクル業者に売却され、その代金が「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付されます。

ワクチン34人分に相当する、約27,000個の回収ができました。

（横浜事業所・御殿場事業所）

緑化活動を実施し、開花や収穫を地域のみなさまと楽しんでいます。

✔ 工場周辺への植林活動
～USHIO PHILIPPINES, INC.～

1998年より敷地内に、周辺工場へも配慮して、樹木背丈の低い「Indian Mango」の植林を行っています。6月には多くの実を付け、社員総出で収穫します。

✔ 工業団地内に桜の苗木150本植樹
～ウシオライティング～

「県民まちなみ緑化事業」の一環として、桜苗木を団地協議会各企業の社員と共同で、団地敷地内に植樹しました。団地内の景観美化を図るほか、CO_2の削減にも期待しています。

ウシオ育英文化財団では、学術・文化・研究活動を支援しています。

ウシオ育英文化財団は人材育成、学術・文化の発展に寄与することを目的に、1994年に設立。学生への奨学金や学術研究・文化活動の助成などの事業を行っています。2007年度は、大学院生（留学生含む）29名、大学生10名、高等専門学校専攻科生8名に奨学金を支給し、4件の研究助成を実施しました。

2010年ウシオ環境ビジョン

ウシオグループは、循環型社会・低炭素社会の実現に向け、以下の環境ビジョンを定めています。

・環境活動と経営の一体化による環境生産性の向上※を実現する
・環境に配慮した製品性能向上活動を拡充する
・製品・生産活動の環境リスクマネジメントを強化する

この環境ビジョンを、第2期環境行動計画にブレークダウンし、5つの環境課題別委員会が各サイトの活動に展開し、推進しています。

※環境生産性の向上
生産活動（TPM）にマテリアルフローコスト会計（MFCA）を連携強化し、環境視点から生産性の向上を図り、環境調和型プロセスにより市場競争力のある製品・サービスを生み出していくこと。具体的には生産工程に投入する資源・エネルギーを効率的に活用し、廃棄物の削減や再利用まで視野に入れた経済的付加価値を生み出すマネジメントを行うこと。

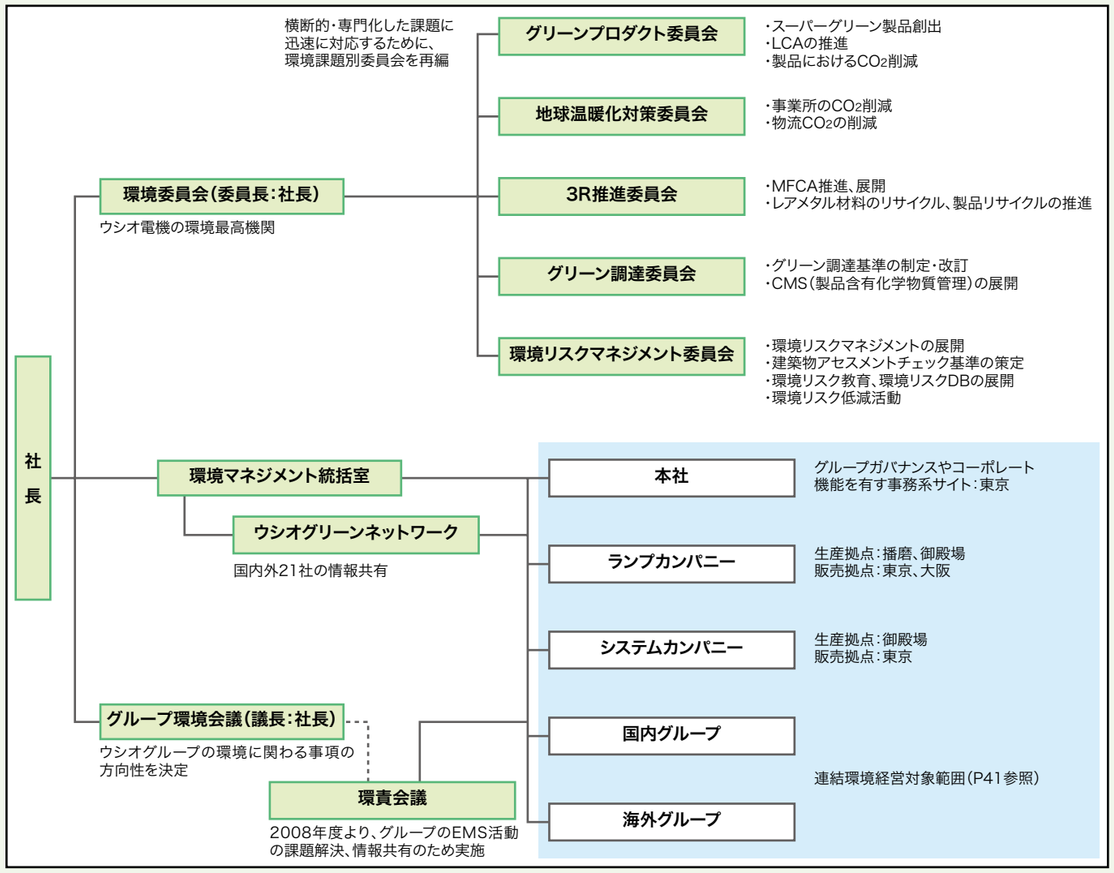
環境活動推進組織

「環境委員会」、「グループ環境会議」はそれぞれ社長を委員長、議長とし、ウシオ電機の環境に関する最高決定機関、ウシオグループの環境方針の決定機関です。

環境委員会の直下に5つの「課題別委員会」があります。

環境委員会、グループ環境会議、および課題別委員会の審議、決定事項などは、「環境マネジメント統括室」および「ウシオグリーンネットワーク(UGN)」を通じ各カンパニー、グループ会社に周知を図っています。

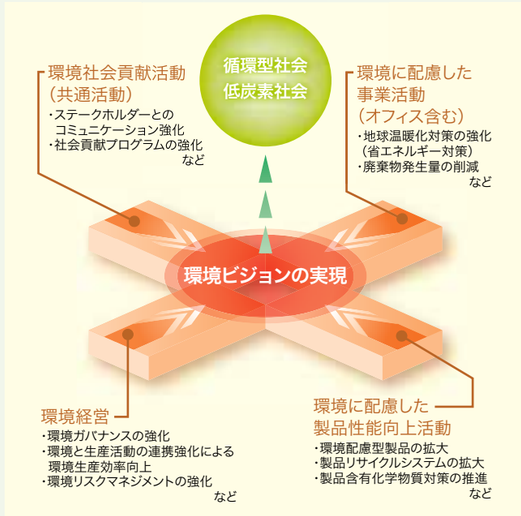
各カンパニー、グループ会社は、自立的に環境活動を推進し、全体目標を達成します。



第2期ウシオ環境行動計画（2007年度～2009年度）

環境ビジョンを実現するために、4つの環境テーマを柱とした「第2期ウシオ環境行動計画」を策定し、環境活動を展開しています。

なお、地球温暖化対策のCO_2排出削減目標については、電機電子4団体の基準に準拠して、売上高原単位から、実質売上高原単位への変更を環境委員会にて決定しました。



ポスト京都議定書を見据えた課題別委員会の体制強化

2008年度以降の環境活動推進について、ポスト京都議定書の最大の課題であるCO_2排出量の削減（低炭素社会の実現）、地球規模の資源の枯渇や環境汚染対策（循環型社会の実現）に対応するため、横断的な課題には共同で取り組む、専門性の要求される課題には専門職を加えた分科会を設けて取り組むとし、これまでの活動に加え以下の体制強化を行いました。

●地球温暖化対策委員会
生産設備については生産性向上の動きと一体化させ、ファシリティについては4つのワーキンググループを編成し、CO_2排出量の絶対値削減を視野にいれた活動をしています。

●3R委員会
マテリアルフローコスト会計による環境生産性の向上、希少資源の代替などの検討を、ワーキンググループを編成し、推進しています。

●グリーンプロダクト委員会
課題ごとに関係部門のメンバーで構成したワーキンググループを編成し、スーパーグリーン製品の開発を目指しています。

グループ環境ガバナンス強化『G8』の取り組み

ウシオグループ全体の環境の取り組みは、各社の独自性を活かしつつ、2005年2月に「グループ環境会議」で制定した「グループ環境ガバナンス（環境経営基盤）の強化８項目」にしたがってベクトルを合わせています。

2008年度以降は、ウシオグリーンネットワークの活動に加えて、各サイトの環境責任者による会議体を設け、問題の共有化、相互の啓発を通じてグループ環境活動の一体化を深めることを図ります。

グループ環境ガバナンス（環境経営基盤）の強化 8項目(G8)

1.環境活動は全グループ会社で実施する
2.ウシオの環境行動計画はグループ全体の目標とする
3.国内はISOで活動し、海外はISOあるいは自主的なEMSで活動する
4.製造系の会社はISOで活動する
5.環境活動の実施状況を内部監査でチェックする（相互監査の実施）
6.環境コミュニケーションは環境マネジメント統括室を通じて一本化する
7.環境パフォーマンスデータ、環境会計などの環境情報を公開する
8.グループ環境保全活動を支援する

ウシオグループのEMSの構築

2007年度は、新たに、
・CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.
・USHIO AMERICA, INC. (UAI)
・CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
・USHIO SINGAPORE PTE LTD.
・株式会社ジーベックス
・UAI OREGON
・USHIO HONG KONG LTD.
が ISO14001の認証を取得し、認証取得会社は国内6社、海外8社となりました。あらたに加わったグループ各社においても、EMS構築活動を進めています。
（詳細は、P33～P38を参照）

■第2期ウシオ環境行動計画目的・目標（2008年度～2009年度）

環境テーマ		推進部門	目的・目標	2008年度	2009年度
1. 環境経営	環境ガバナンスの強化	環境マネジメント統括室	・グループ環境マネジメントシステムの確立	グループ環境マネジメントシステムのレベルアップ ウシオ環境活動ガイドライン充実（英文版など）	グループ環境マネジメントシステムのレベルアップ
	環境と生産活動の連携強化による環境生産効率向上	地球温暖化対策委員会 3R委員会	・経営に直結した環境情報を可視化し、環境生産性の向上を図る（環境生産性2006年度比1.2倍）	環境生産性2006年度比1.1倍	環境生産性2006年度比1.2倍
	環境リスクマネジメントの強化	環境リスクマネジメント委員会	・環境リスク対策強化による環境リスクの低減	環境リスクマネジメントガイドラインの海外グループへの導入 環境リスク教育プラットフォームの導入	―
2. 環境に配慮した製品性能向上活動	環境配慮型製品の拡大	グリーンプロダクト委員会	・環境配慮型アセスメント基準のグループ会社への展開 ・スーパーグリーン製品の創出	スーパーグリーン製品の創出 主要製品のLCA実施率50%	各ビジネスユニット（BU）ごとにスーパーグリーン製品を創出 主要製品のLCA実施率100%
	製品リサイクルシステムの拡大	3R委員会	・製品リサイクルシステムの確立	製品リサイクルシステムの確立	―
	製品含有化学物質対策の推進	グリーン調達委員会	・特定有害物質の削減・代替・全廃による市場のグローバル化対応	グリーン調達基準・化学物質管理基準のアップデイト 環境対応力の向上のための運用体制強化・グループ間の連携	―
3. 環境に配慮した事業活動（オフィス含む）	地球温暖化対策の強化（省エネルギー対策）	地球温暖化対策委員会	・実質売上高CO_2原単位（原油換算）エネルギー使用量を1990年度比47%以上削減 ・物流改善によるCO_2排出量を2006年度比10%以上削減	(単体)実質売上高CO_2原単位を1990年度比45%以上削減 (グループ全体)実質売上高CO_2原単位を2005年度基準で2%以上削減 物流改善によるCO_2の低減2006年度比8%以上削減	(単体)実質売上高CO_2原単位を1990年度比47%以上削減 (グループ全体)実質売上高CO_2原単位を2005年度基準で3%以上削減 物流改善によるCO_2の低減2006年度比10%以上削減
	廃棄物発生量の削減	3R委員会	・廃棄物発生を抑制し、コスト削減・環境負荷削減を積極的に推進	（国内グループ）廃棄物処理コストを前年度比5%削減	（国内グループ）廃棄物処理コストを前年度比5%削減
4. 環境社会貢献活動【共通活動】	ステークホルダーの方々とのコミュニケーション強化	環境マネジメント統括室	・ステークホルダーの方々にウシオの環境理念・環境取り組みを積極的に情報公開する	CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行 CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」英語ダイジェスト版の継続発行	CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行 CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」英語ダイジェスト版の継続発行
	社会貢献プログラムの強化（拡大）	環境マネジメント統括室	・地域および地球環境への環境貢献	社会貢献活動の普及 環境イベントの開催（継続）	社会貢献活動の拡大 環境イベントの開催（継続）

■2007年度ウシオ環境テーマ・目標と活動実績

環境テーマ		推進部門	2007年度目標	評価	2007年度主な活動実績	関連ページ
1. 環境経営	環境ガバナンスの強化	環境マネジメント統括室	環境マネジメントシステムの拡大 グループ環境教育実施 グループ相互監査実施	○	関東地区合同内部環境監査員教育の実施。 6社11サイトでISO14001を認証取得。	P21,P24
	環境と生産活動の連携強化による環境生産効率向上	環境マネジメント統括室	マテリアルフローコスト会計（MFCA）の導入（播磨・御殿場） 環境パフォーマンス、環境会計システムの導入	○	播磨事業所ショートアークUVランプの電極切削工程、バルブ加工工程でMFCAを実施。 御殿場事業所ショートアークUVランプの電極切削工程、電極組み立て工程でMFCAを実施。 環境経営システムUSHIO ECO-SYSのグローバル運用開始。	P27,P31,P32
	環境リスクマネジメントの強化	環境リスクマネジメント委員会	環境リスクマネジメントガイドラインの確立 環境リスクマネジメント教育の実施	○	環境リスクマネジメントガイドラインのグループ会社導入（国内7事業所、海外5社）。 環境リスクトレーニングをグループ会社で実施（国内1社、海外1社）。 環境リスク低減活動をサイトの環境マニュアルで規定化。	P30
2. 環境に配慮した製品性能向上活動	環境配慮型製品の拡大	環境配慮型製品開発委員会	環境配慮型アセスメント基準のグループ会社への展開 スーパーグリーン製品の推進（開発ロードマップ） LCAの拡大 電源・装置のLCA公開と制度化	○	環境配慮型製品アセスメントの実施事例説明会を国内グループで実施。 スーパーグリーン製品の開発ロードマップ化。 スーパーグリーン製品のシンボルマークを制定。 LCAをランプカンパニー技術部門の環境実施計画組み込み。 電源2機種のLCAを実施。	P26
	製品リサイクルシステムの拡大	リサイクル委員会	製品リサイクルシステムの拡大	○	ショートアークUVランプについて産業廃棄物広域認定を取得した（2007.4.10　第105号）。 半導体・液晶露光事業者のお客さまに、リサイクル提案・契約推進。	P27
	製品含有化学物質対策の推進	グリーン調達委員会	特定有害物質の把握と管理強化 VOC対応の強化	○	グリーン調達に関する顧客対応要領を制定・運用。 グリーン調達データベースの再構築に着手。 PFOSを含めた法規制情報を広く収集と、グリーン調達基準の見直し。 PFOS含有調査と、対象部材の代替化。	P25
3. 環境に配慮した事業活動（オフィス含む）	地球温暖化対策の強化（省エネルギー対策）※	地球温暖化対策委員会	（単体）実質売上高CO_2原単位を1990年度比43%以上削減 （グループ全体）売上高CO_2原単位を2005年度基準で1%以上削減 物流改善によるCO_2の低減：2006年度比5%以上削減	△	（単体）実質売上高CO_2原単位を1990年度比31%削減。 （グループ全体）売上高CO_2原単位を2005年度基準で10%削減。 物流改善によるCO_2の低減：2006年度比8%削減。	P28,P29
	廃棄物発生量の削減	ゼロエミッション委員会	（国内グループ）ゼロエミッション状態の維持 （単体）廃棄物処理コストを、前年度比5%削減	△	国内3サイトでゼロエミッション状態を維持、グループ全体の有効利用率は98%。 （国内グループ）廃棄物処理コストを前年度比4%削減（排出量で見て）。	P27
4. 環境社会貢献活動【共通活動】	ステークホルダーの方々とのコミュニケーション強化	環境マネジメント統括室	CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行 CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」 英語ダイジェスト版の発行 環境総合窓口拡充（eラーニングの一部導入）	○	CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行。 CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」英語版の継続発行。 グループネットワーク上に環境総合窓口を開設。	P9,P17
	社会貢献プログラムの強化（拡大）	環境マネジメント統括室	エコクラブの設立（個人の取り組みのweb登録） 制度の検討（ボランティア休暇など） 環境イベントの開催	○	ボランティア休暇制度の導入。 「エコの風」などの発刊（ボランティア活動の紹介）。 環境イベントの開催（ウシオ・フェスティバル）。	P18,P19

※排出削減目標を電機電子4団体の基準に準拠して、売上高原単位から、実質売上高原単位に変更することを環境委員会にて決定しました。

評価：○目標通り達成、△取り組んではいるがいま一歩の成果、×60%以下の達成

Question 社員への環境教育ではどのようなことを目的としていますか？

Answer 社員自らが自覚し、業務で環境活動を実践する能力を養うことを目的としています。

活動の指針と目標

本来業務における環境活動の展開を、自らが自覚し、課題を具体化し実践する能力を養うための環境教育を、社員それぞれの役割に応じた環境教育を実施しています。
また、グループ全体の環境教育を通じて、社員一人ひとりの環境意識啓発を常に行っています。

活動の概要と成果

社員一人ひとりが主体となって、「環境」へ取り組むために、
① 本来業務の中の環境活動の実践を目的とした管理者クラスの環境マネジメント教育と、
② グループ全体の環境活動へ向けた、グループ間環境教育を実施しています。
①は、人事部門の階層別人材教育の中に組み込まれ、②は、環境統括部門の連結環境推進活動の中で実施しています。

✔ 環境マネジメント教育

2007年度、役職昇格試験受験者研修プログラムを見直し再構成して、マネジメント研修（2日間）とサステナビリティ研修（1日間）の2つの研修を設けました。

サステナビリティ研修の一環として行う環境教育は、当社の環境経営度を自己評価させるユニークな教育プログラムです。自分の仕事や周りの職場を通して、またサステナビリティレポートを読んで、当社の環境取り組み状況について7つの評価視点から、その取り組み度合いを分析して、当社の環境経営状態を自己点検します。役職者として、お客さまやあらゆるステークホルダーの方々のニーズと社会状況の変化を読み取り、現状の差異を分析し課題として捉え、役職者が自ら目標展開を行うための人材育成を目的とした環境教育です。

研修受講者からは、「これまであまり深く環境について考えることがなく、よい機会になった。」「（研修において）課題に取り組み意見交換することで、全社の取り組みを具体的に理解できた。」などの声が聞かれました。

＜環境取り組み状況7つの評価点＞
- 運営体制の確立
- 長期目標の策定
- 汚染対策の実施
- 資源循環リサイクルの推進
- 製品対策の実施
- 温暖化対策の推進
- オフィス、非製造拠点の取り組み

✔ グループ間環境教育

各サイトがそれぞれ環境マネジメントシステムを構築（ISO14001認証取得）してきた中で、2007年度は、関東地区のグループ会社を対象に、合同内部環境監査員養成教育を行いました。この企画は「環境ガバナンスの強化（グループEMSの確立）」のための一施策として行ったものです。各サイト個別の教育実施に比べて、
① 環境マネジメント活動の効率向上、ベクトルやレベル合わせ
② また、負担の軽減や、研修費用の節約
になるなど、良い機会となりました。

グループ会社と合同での監査員教育は初めての試みでしたが、ウシオ電機本社およびランプカンパニー東京営業と、筑波ウシオ電機、群馬ウシオ電機、ジーベックスより計19名が参加し、内部環境監査員として加わりました。受講者からは、「内部環境監査の際の、模擬応答（ケーススタディ）を織り込んで欲しい。」と意見もあり、次回の改善課題として、より充実した合同内部環境監査員教育を実施していきます。

活動の現場から

昨年度より、サステナビリティと企業の社会的責任（CSR）・法令遵守について、役職者候補として意識して行動できる人材育成を目指し、受験対象者に1日研修を実施しました。この研修は、担当部門の人を講師として学習を進めていくものです。従来は、専門部門に任せていた問題について、役職者として自分の問題と捉え、解決にむけて行動する事が狙いです。この場で学んだことが、今後活気ある職場作りに役立つことを期待しています。

人事部
五十嵐　満澄

Question 製品の含有化学物質管理について、どのように対応していますか？

Answer 製品に関わるグローバルな環境規制を理解し、製品情報を管理する仕組みを作り、運用を開始しています。

活動の指針と目標

製品の開発時に含有化学物質の情報を収集し、いつでも情報開示ができる仕組みを作ることが目標です。

活動の概要と成果

お客さまの環境要求を品質要求として、担当者一人ひとりが理解するように勉強会を継続実施しています。
各部署関係者が定期的に連絡会を開催し、グリーン調達データベースの再構築や情報伝達の仕組み改善を進めています。

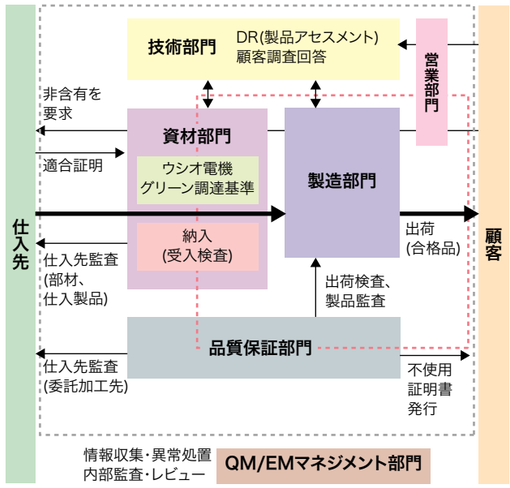
✔ 顧客別グリーン調達基準の勉強会を実施

お客さまごとに異なるグリーン調達基準や要求内容・製品の環境規制に関し、技術部、資材部、調達部、品質保証部など関係部署にて勉強会を定期的に行っています。

✔ 環境対応の流れと役割分担の明確化

・新たな環境対応要領を制定し、製品設計管理基準の見直しを行いました。
・関係部署の責任と対応を明確にし、設計検証までに、全ての構成部材の調査、検証を終えるようにしました。

■環境対応要領フロー図



✔ グリーン調達データベースの再構築

お客さまからは、化学物質調査や禁止物質不使用保証書の提出に加えて、回答した根拠としてRoHS分析結果などの提出が求められるなど、ますます多様化する環境対応が必要となってきました。

このため、現在までに入手している調査票などを、社内の誰でも簡単にアクセスできるよう『グリーン調達データベース』を再構築し、活用できるよう取り組んでいます。

✔ グリーン調達基準をホームページで公開しています

ウシオ電機は、資材の購買活動に対する指針として「グリーン調達基準」を制定しています。それをホームページで公開しています。

「グリーン調達の取り組み」
http://www.ushio.co.jp/jp/eco/plan/green.html

活動の現場から

RoHS対応をはじめとする環境対応はますます高度化、細分化してきています。
このため製品開発と同じくらい重要と位置付け、早期に情報収集し、お客さまのニーズに応えられるようにしています。

ランプカンパニー
環境マネジメント推進室
園田　良太

Question
環境配慮型製品における
ウシオの取り組みについて
教えてください。

Answer
**優れた環境配慮がなされている
スーパーグリーン製品を創出
していくことに取り組んでいます。**

活動の指針と目標

第2期全社環境行動計画で、2007年度の活動目標を以下のように定めています。
・環境配慮型製品アセスメント基準の海外を含むグループ会社への拡大
・スーパーグリーン製品創出活動の推進
・LCA（ライフサイクルアセスメント）のレベルアップ

活動の概要と成果

技術部門の開発ロードマップに、既存製品とは一線を画す、革新的環境対応技術を採用したスーパーグリーン製品創出を目標として盛込みました。技術者のスーパーグリーン製品開発に対する関心を一層高めるため、シンボルマークを制定するとともに、スーパーグリーン製品候補を抽出し、スーパーグリーン製品基準に従った評価を進めています。

✔ 環境配慮型製品アセスメントの実施

2007年度は、ランプ製品約200品種の環境配慮型製品アセスメントを実施しました。立ち上がり特性を10%改善、5%の軽量化などの実現により、約100品種の製品が環境配慮型製品と認定されました。

✔ 環境配慮型製品アセスメントをグループ会社に展開

国内グループ会社3社への環境配慮型製品アセスメント基準説明会を実施しました。今年度は、具体的な実施事例を中心に説明しました。

環境配慮型製品アセスメント説明会

各社では、活動状況に合わせ環境配慮型製品1件の創出、LCAの実施、有害物質アセスメントの実施など課題を定めた取り組みが始まっています。また、海外グループ会社へ、「環境配慮型製品アセスメント基準」の紹介を行いました。

環境配慮型製品の例は、トピックス（P4,P5）を参照ください。

✔ スーパーグリーン製品のシンボルマークを制定

革新的環境対応技術を採用したスーパーグリーン製品の創出に対する技術者の意識向上と開発の促進、社外へウシオの環境対応技術を積極的にアピールする目的で、「自己宣言型環境ラベル」※として、スーパーグリーン製品のシンボルマークを制定しました。スーパーグリーン製品は、「省エネ」「長期使用」「3R設計」「使用材料」「アプリケーション」などで優れた環境配慮がなされたトップランナー製品で「スーパーグリーン製品基準（2006年3月制定）」を満たす製品です。これまで実施してきた環境配慮型製品アセスメントやLCAをベースとして、スーパーグリーン製品を、シンボルマークを付して世の中に創出していきます。

SUPER GREEN PRODUCTS

このシンボルマークは社員の投票によって決定しました。持続可能な社会の実現に貢献するウシオの姿勢を、しなやかに育つ若葉と煌めく一滴の露で表現。親しみやすさと、環境を大事にする人の営みを感じるようペンタッチで工夫を凝らしています。

※「自己宣言型環境ラベル」：環境ラベルとは製品またはサービスの環境と相互に影響する要素の主張であり、自己宣言型とは、独立した第三者の認証を必要としない環境主張のこと。

スーパーグリーン製品～フラッシュランプアニール装置～

スーパーグリーン製品候補の一つに、半導体製造工程の熱処理装置「フラッシュランプアニール装置」があります。
従来使われてきたハロゲン方式に比べて、次世代用MPU製造のキープロセスとなるフラッシュランプアニール方式は、表面から数ミクロンだけ温度を上昇させるため非常に短時間のアニールを可能にします。
お客さまとの相互開発により、この新開発フラッシュランプをアニール装置に組み込み、このプロセスでの使用エネルギーを2分の1～3分の1に減らしました。この装置は優秀省エネルギー機器表彰制度で日本機械工業連合会会長賞を受賞しました。

活動の現場から

スーパーグリーン製品とは、環境に良い材料や技術の採用した製品やアプリケーションで環境に良い技術を実現する製品などで、使用や廃棄のステージにおいて格段に環境配慮が進んだ製品のことです。製品アセスメントを開始してから、2006年度に主要開発製品全てが環境配慮型製品と認定できるようになり、これからは、スーパーグリーン製品の創出に取り組んでいきます。

環境配慮型製品
開発委員会
虎谷　聡

Question
資源の有効利用はどこまで
進んでいますか？

Answer
**生産拠点ではゼロエミッション
（有効利用率99%以上）レベル
に到達。今後は排出量の削減に
取り組みます。**

活動の指針と目標

第2期全社環境行動計画で、2007年度の目標を、以下のように定めています。
・国内グループ：ゼロエミッション状態の維持
・単体：廃棄物処理コストを前年度比5%以上削減
・マテリアルフローコスト会計を導入し、負荷の低減プラスコストダウンによる環境生産性向上へと幅を広げた活動を展開する
・製品リサイクルの拡大

活動の概要と成果

資源の有効利用を進めたことにより、ウシオ電機全体での有効利用率は前年度より1.5ポイントアップし、98%となりました（2007年度第4四半期末）。四半期ごとの集計でゼロエミッションを継続できるサイト数は、3サイト、断続的に実現できるサイト数は、2サイトとなりました。廃棄物処理コストは、排出量で見て、前年度比4%の削減となりました。

✔ 再資源化による有効利用率の向上

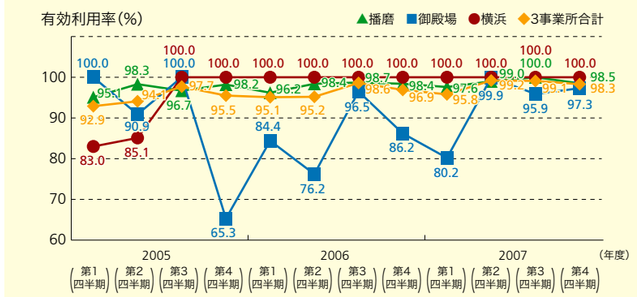
＜播磨事業所＞

金属ワイヤの処理問題を解決できたことにより、小型UVランプの再資源化処理が軌道に乗ったことから、UVランプの生産部門では、第1四半期よりゼロエミッション（有効利用率99%以上）状態を維持しています。

＜御殿場事業所＞

廃棄物の20%近くを占めるガラスくずの道路路盤材などへの再資源化が可能となりました。さらに、ガラスくずの分別を細分化することで有効利用率を上げ、ゼロエミッションの達成を見込んでいます。

■廃棄物 有効利用率推移（3事業所・四半期平均）



✔ さらなる排出量の削減に向けて
～マテリアルフローコスト会計の試行～

播磨事業所、御殿場事業所のショートアークUVランプの製造工程において、マテリアルフローコスト会計を導入※、試行しました。投入資材に対するマテリアルロスを重量比、コスト比で把握し、工具の磨耗などによるシステムロスをコスト把握できるようになり、廃棄物の発生過程にメスを入れる改善が進みました。

✔ 使用済み製品のリサイクル

工程内廃棄物で培った再資源化技術を、使用済みランプのリサイクルに拡大する目的で、半導体・液晶・プリント基板焼付用ショートアークUVランプの回収リサイクルシステムを展開しています。

2007年4月に広域認定（認定番号：第105号）を受けています。

※参照：『環境管理会計 2008 VOL.44 1月号』p.66「ウシオにおける環境生産性向上への取り組み－マテリアルフローコスト会計の導入」

活動の現場から

ゼロエミッション活動を進め、有効利用率は向上してきましたが、廃棄物の量自体はそれほど減っていないのが実態です。今後は廃棄物の排出量と処理コストの削減に取り組んでいきます。

御殿場事業所
業務部
上原　英嗣

リソグラフィー光源分野のトップメーカーとして、今後も環境に関することはお客さまへ積極的に提案していきたいと思います。
ショートアークUVランプの廃棄物はランプメーカーに戻していただくことで、地球環境に最も優しい取り組みが実現できます。今後もお客さまへの呼びかけなど、努力していきます。

ランプカンパニー
SH-BU営業部
島本　将弘

Question

温暖化対策を推進するための大切なポイントとは、どんなことですか？

Answer

一人ひとりがエネルギーの使い方を意識すること。そのためには実態を「見える化」することが大切だと考えます。

活動の指針と目標

●第2期全社環境行動計画で、2007年度のCO_2排出削減目標を、以下のように定めています。
・ウシオ単体：①エネルギー消費によるCO_2排出量を、実質売上高原単位で、1990年度比43%以上削減
②物流によるCO_2排出量を2006年度比5%以上削減
・グループ全体：エネルギー消費によるCO_2排出量を、売上高原単位で、2005年度比1%以上削減
●ポスト京都議定書を見据えて、2020年におけるCO_2排出量を実質売上高原単位で1990年度比60%削減する目標を定めました。

活動の概要と成果

「見える化」の推進、設備の見直しや運用の効率化、輸送の効率化などの重点施策に取り組みました。

ウシオ単体のエネルギー消費によるCO_2排出量は、実質売上高原単位で、1990年度比、31%減と未達の結果となりました。既存設備の積極的な省エネ活動を行いましたが、御殿場事業所、播磨事業所の新棟の稼動により全体的にはエネルギー使用の増加となりました。

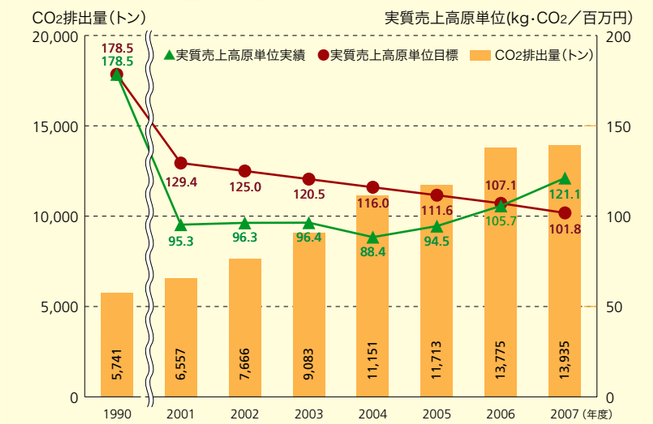
物流によるCO_2排出量は、2006年度比8%削減し目標を達成しました。

グループ全体のエネルギー消費CO_2の排出量では、売上高原単位で2005年度比10%削減しました。

✔ エネルギー使用の効率化

●播磨事業所では、エネルギー消費量の8%を占めているクリーンルーム運用の再評価を行い、必要なクリーン度にあった循環回数の設定、夜間、休日の温度設定の廃止、フィルター交換などの保守の適切化を行い、1.9%のエネルギー削減を実現しました。

■CO_2排出量　実質売上高原単位推移（ウシオ電機単体）



●生産棟に電力モニターを設置したことにより、
・大型設備ごとのエネルギー使用状態を詳細に把握し、可能な設備については休日の運転を停止する
・各工程の設備稼働状況を可視化し、設備の稼動を効率化する
・同一工程、同一設備など本来同じであるはずのエネルギー使用量の違いから、部品劣化を早期に発見し、適時な保守を実施する

など、きめ細かい工程、設備の管理が可能となり、各部署のエネルギー使用量の管理レベルが向上しました。

電力モニターでの測定と分析

●非生産サイトにおいては、PCの省エネタイプへの順次切替え、更新時に合わせたOA機器の省エネタイプへの切替え、冷暖房の設定温度の最適化の徹底などの施策を継続実施しました。本社の例では、2006年度比で15%の電気使用量削減を実現しました。

グループの取り組みから

■ウシオライティング

使用電力量の削減目標を、前年度比マイナス2%（削減量：90,000kWh）として、取り組みました。

クリーンルームについては、生産量の変動に合わせて不要な箇所の空調運転を停止する、こまめに設定温度を調整するなど、ムダな運転を減らしました。

設備については、コンプレッサおよび空調機の更新時に省エネタイプを採用する、排風機にインバータ機能を追加するなど省エネ化を推進しました。

また、普段手の届かない共用部分（食堂・会議室など）の空調機にフィルター洗浄実施日と次回洗浄予定日を掲示し、「見える化」によるメンテナンスの最適化を図りました。

休憩時間の消灯、冷暖房温度の最適化も継続実施しました。

これらの施策による、2007年度の削減量は、96,000kWhとなり、削減目標は達成しましたが、生産量の増加により排出量は、1%の増加となりました。

■CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.<CDSC>

2007年7月より、クリスティ グリーンチームは、「パワーダウン」キャンペーンを実施し、「社員一人あたりの電力消費を10%減らす」ことに取り組んでいます。

照明については、次の施策を実施しました。
・作業場の照度を、業界基準に合わせて、照明を最適化し、作業環境を悪化させることなく、1,000本の蛍光灯を削減
・トイレの照明スイッチを人センサー式に替える
・就業時間以外のオフィスの消灯

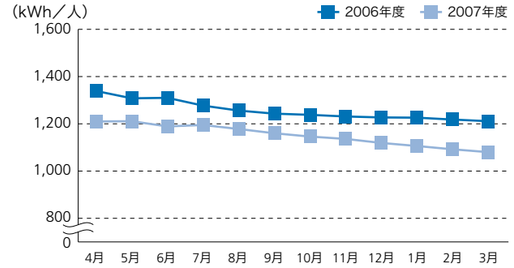
エアコンについては、チームが施設内の温度調査を行った結果をもとに、全てのサーモスタットの設定温度を24℃にしました。さらに、午後5時30分より翌日午前7時まで、エアコンを作動停止にしました。

製造設備やOA機器についても、省エネ機器化を進めています。

これらの施策と結果を奨励ポスターで社員に伝えています。

社内のエネルギー削減の意識が高まり、不要な照明は率先して消すように社内全体が変わってきているとともに2008年3月は、2007年7月比9.6%の削減となりました。

■社員一人あたりの電力消費量

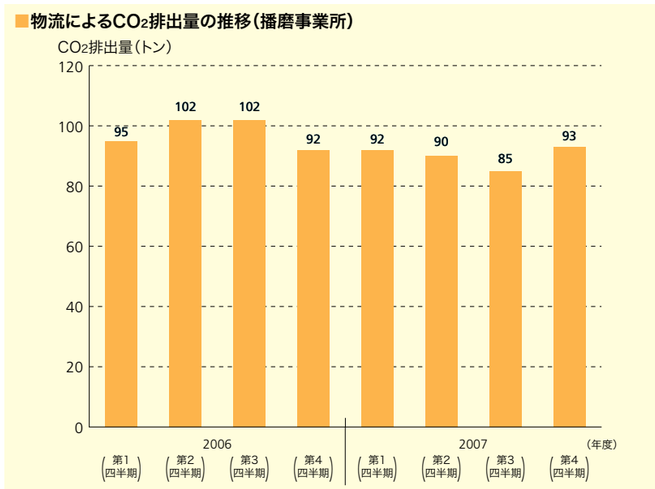


✔ 物流におけるCO_2削減

播磨事業所からの製品物流において、
・関東方面へ出荷した際の帰り便に横浜・御殿場事業所の関西方面への出荷製品を積載するなど帰り便を有効活用する
・出荷製品量に合わせてトラックの便数の調整を行い、積載率を向上する
・海外向け出荷品の保管、積み出しの拠点を、関東から出荷量の多い播磨事業所に近い関西地区に移し、国内輸送の距離を短縮する
・出荷製品の一部をトラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトをする
・専用便の運送委託会社のトラック90%以上に、デジタルタコメータを装着し、自主管理によるエコドライブを実施。運送実績、燃費、CO_2排出量のデータを定期的にモニターする

などの施策を実施し、輸送に関わるCO_2排出量を2006年度比8%削減し目標を達成しました。

■物流によるCO_2排出量の推移（播磨事業所）



活動の現場から

2008年より京都議定書の約束期間が始まり、温暖化対策は待ったなしの状況にあります。一方で個々人の意識にはまだ温度差が感じられます。いかにして一人ひとりの意識をエネルギー削減に結びつけることができるかが大きな課題だと考えています。

地球温暖化対策委員会
藤田　利和

Question
「環境リスク」への対応はどのように行っていますか？

Answer
「環境リスク巡回」や「環境リスク教育」を実施し、環境マネジメントシステム（EMS）を補強するリスクマネジメントを推進しています。

活動の指針と目標

環境に関係する事故、災害対策だけでなく、事業活動を通して社内外の環境課題を①発見し、②的確に、③対処することが重要です。
ウシオグループは、「環境リスクマネジメントの導入と強化」を環境経営の主要な要素として位置付けています。

活動の概要と成果

✔ 現場レベルでリスクマネジメントを強化

生産サイトでは、現場レベルで「環境リスクの発見」と「リスク感性の向上」を目的とした「環境リスク巡回」を毎年行っています。これまでに150件以上のリスク想定件数を上げ、一つひとつ予防的対応をしています。発見したリスクを評価し、影響の大きいものは「著しい環境側面」として捉え、EMSの仕組みで改善することで、リスクマネジメントによる強化を図りました。

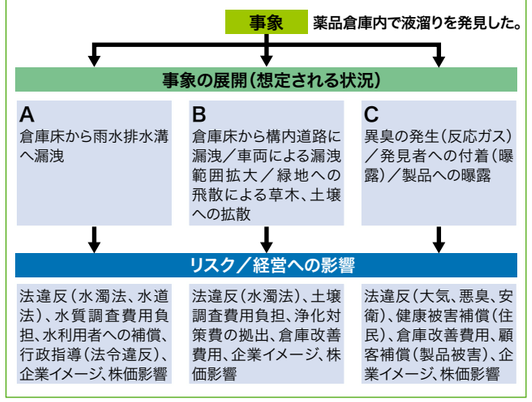
✔ 社員のリスク対応力を強化

社員一人ひとりのリスク対応力を強化するために「環境リスク感性向上トレーニング」を、社員教育に組み込み、新たに実施しました。

教育に、「最初の事象から環境リスクが最大・顕在化するまでの過程と影響の大きさを想定する訓練手法」（環境リスクシナリオ作成法）※を取り入れ、2007年度は、132名が受講しました。

※「**電機・電子環境リスクマネジメント研究会**」：（社）日本電機工業会、（社）電子情報技術産業協会にて開発

■リスクシナリオ（事例）
※環境リスクマネジメント講習資料より

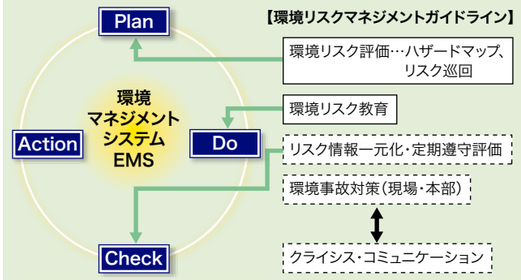


✔ 環境リスクマネジメントをグループ会社に拡大

国内外のグループ会社に「環境リスクマネジメント」の導入を進め、ガイドラインについて現地スタッフと標準化の検討を行うとともに、環境リスクに関する教育を実施しています。

環境リスク教育
上：ウシオ香港番禺委託加工工場
左：ウシオライティング福崎本社

■ISO14001をベースにしたリスクマネジメント



活動の現場から

電機・電子業界団体の「環境リスクマネジメント研究会」へ参加、実践事例として当社の取り組みを紹介できました。外部の刺激を受け、環境に関する状況変化を感じる力を磨き、人も仕組みもより向上していくことが大切です。

環境リスク
マネジメント委員会
氏家　啓一

Question
環境パフォーマンス数値をどのように活用していますか？

Answer
環境負荷低減だけでなく、経営の視点からムダをなくすための材料として活用しています。

活動の指針と目標

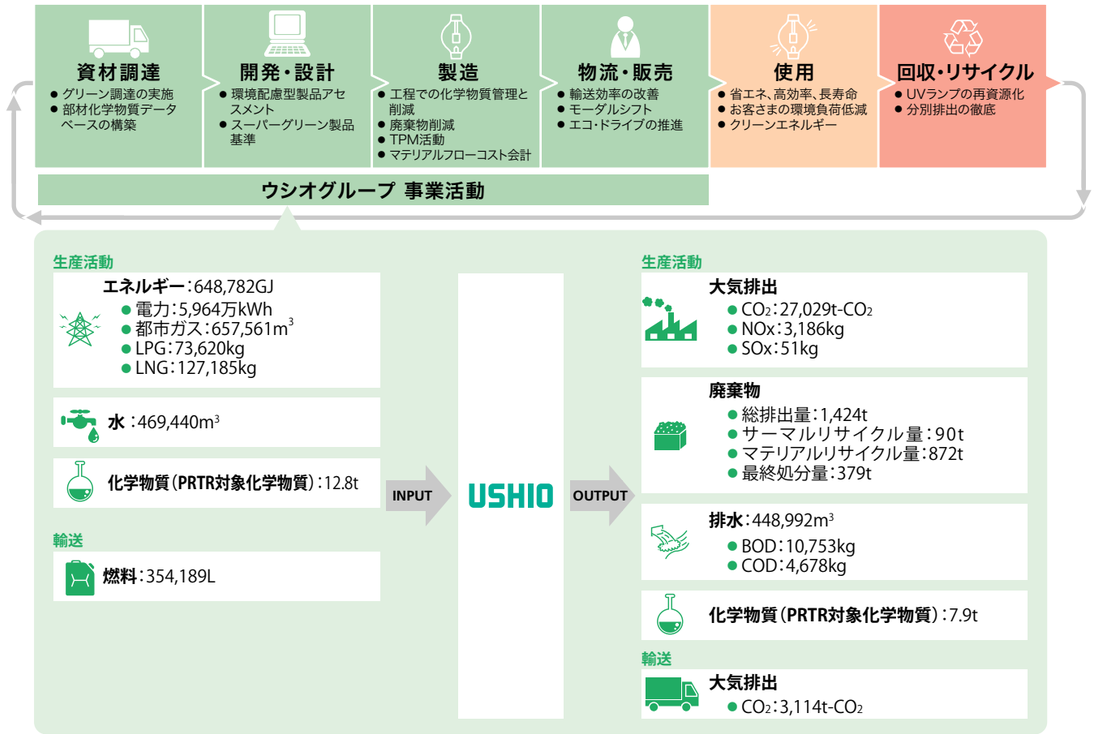
グループ全体の活動成果を随時把握し、フィードバックする仕組みを構築します。

活動の概要と成果

ECO-SYS（環境経営情報システム）により、ウシオグループ各サイトの環境情報を随時把握できるようになりました。この情報を環境経営をはじめ、各サイトでのEMS活動などに活用しています。

<ウシオグループのエコバランス>

ウシオグループの事業活動が環境に与える影響を、製品のライフサイクルの段階ごとに把握するよう努めています。



● 対象期間：2007年4月1日～2008年3月31日
● 対象範囲：連結環境経営対象範囲
（P41 主要グループ・ネットワークの注釈に示す会社）
化学物質（PRTR）：対象化学物質の排出量、移動量の合算値
※電力のCO_2換算係数は2007年版では0.555（温暖化対策法による排出係数）を使用していましたが、2008年版は0.410（電気事業連合会による排出係数）を使用しています。
※燃料については製品の移動（トラック輸送）、および営業車など人の移動（社有車利用）があります。

Question

環境投資の成果をどのように検証していますか?

Answer

環境会計により、投資した分野でより大きい効果が得られたかどうかを検証して、環境活動へつなげていきます。

活動の指針と目標

共通の環境指標を用い、グループとして効果的かつ、効率的に環境経営の強化・推進を図っていきます。

活動の概要と成果

✔ 2007年度は、費用合計が約557百万円、効果額合計は約223百万円(実質的効果および推定的効果)となりました。2006年度と比較して、研究開発費が減少しましたが、これは有害化学物質管理体制が整ったことによります。設備投資では、ECO-SYS(環境経営情報システム)やフッ酸処理設備への投資を行いました。

✔ 2007年度は国内外のグループ会社(全連結環境経営対象会社)にECO-SYS(環境経営情報システム)を導入したことにより、集計、効果算出の効率化を図ることができました。

<ウシオグループの環境会計>

単位:百万円

分類	主な内容	費用	環境設備投資	効果額	
				実質的効果	推定的効果
公害防止コスト・効果	中和槽の新設や設備の保守費用 フッ酸処理設備、騒音低減設備など	46.8	36.4	1.1	46.7
地球環境保全コスト・効果	高効率空調機や電力監視システムの増強 外気遮断システムの導入など	68.0	21.3	33.9	0.7
資源循環コスト・効果	廃棄物処理費用、資源廃棄物売却益 リサイクルボックスなど	85.2	0.1	20.6	0.9
上下流コスト・効果	再商品化委託手数料 OA機器など	8.0	0.1	0.3	0.6
管理活動コスト・効果	環境マネジメントシステム構築・維持 ECO-SYSなど	262.0	56.8	73.3	20.1
研究開発コスト・効果	環境配慮型製品開発費 開発支援ソフトウエアなど	72.7	3.0	5.1	0.0
社会活動コスト・効果	寄付、美化、緑化活動など	14.4	0.0	17.7	2.3
環境損傷対応コスト・効果	—	0.0	0.0	0.0	0.0
2007年度合計		557.0	117.7	151.9	71.2
2006年度合計		704.8	29.1	53.4	90.9

●対象期間:2007年4月1日〜2008年3月31日
●対象範囲:連結環境経営対象範囲 (P41 主要グループ・ネットワークの注釈に示す会社)
●環境保全コストの算定基準: ①費用額には人件費、投資の減価償却費を含みます。
②設備投資額の減価償却費は5年の定額法を用いています。
③環境保全コストとそれ以外のコストが複合したものは、環境保全に関わる部分だけを計上しました。
●効果:実質的効果(直接金額で算出)と推定的効果(可能性を推定して算出)としています。

社会におけるCO$_2$削減効果 【172,522t】

※CO$_2$削減効果:「削減電力量」×「2007年度出荷本数」×CO$_2$換算係数にて算出しました。
グループ全体の代表的な省エネ型製品の使用時におけるCO$_2$の削減量で評価。

ウシオは、グループ一体となった環境経営を推進しています。

ウシオグループ各社は、「グループ環境ガバナンスの強化8項目(G8)」に従って、一体性を保ちつつ、独自にEMSを構築し、環境活動を進めています。
以下に、グループ会社およびサイトの主要なEMS活動状況の概要と環境パフォーマンスを報告します。
なお、2007年度各サイトにおいて、環境関連の法令違反・訴訟・罰金・科料・事故はありませんでした。

生産サイト

国内 海外

ウシオ電機株式会社 播磨事業所

●EMSなどの認証状況
ISO14001/1997.10(2004.10御殿場事業所・東京営業本部・大阪支店を含め拡大認証)
ISO9001/1993.05(1995.10御殿場事業所を含め拡大認証)

●主な環境関連の取り組み
・行政や近隣住民へのサステナビリティレポート配布と活動報告を実施
・ウシオフェスティバルで、子供たちに環境問題に関する展示やゲームを実施
・ショートアークUVランプ回収リサイクルシステム運用開始
・電力モニターを生産棟に設置し、エネルギー監視体制を整えた

INPUT 項目		数値
	総エネルギー投入量(GJ)	253,105
	水資源(m^3)	60,152
OUTPUT 項目		**数値**
	温室効果ガス(トン-CO$_2$)	10,769
	NOx(kg)	420
	SOx(kg)	0
	総排水量(m^3)	48,545
	BOD(kg)	10,604
	COD(kg)	4,440
PRTR(届出)	クロロホルム(kg):大気	5,587
	モリブデン(kg):下水	5
	:廃棄物	484
廃棄物	総排出量(kg)	409,219
	最終処分量(kg)	6,378
	資源有効利用率(%)	98.4

〒671-0224
兵庫県姫路市別所町佐土1194
■主要生産品目
超高圧UVランプ、NSHランプ、ハロゲンランプ、希ガスランプ、エキシマランプ など

ウシオ電機株式会社 生産技研横浜事業所

●EMSなどの認証状況
ISO14001/2004.02
ISO9001/1997.07

●主な環境関連の取り組み
・ISO14001とISO9001との統合的運用により、効率的な運用を行なった
・協力工場への配送などにおいて積載効率の向上を図り、物流におけるCO$_2$排出量を売上高原単位で前年比20%削減達成

INPUT 項目		数値
	総エネルギー投入量(GJ)	23,720
	水資源(m^3)	28,982
OUTPUT 項目		**数値**
	温室効果ガス(トン-CO$_2$)	981
	NOx(kg)	12
	SOx(kg)	0
	総排水量(m^3)	27,705
	BOD(kg)	—
	COD(kg)	—
PRTR(届出)	——	—
廃棄物	総排出量(kg)	52,776
	最終処分量(kg)	142
	資源有効利用率(%)	99.7

〒225-0004
神奈川県横浜市青葉区元石川町6409
■主要生産品目
各種露光装置、スポットUV照射装置、光測定器 など

ウシオ電機株式会社 御殿場事業所

●EMSなどの認証状況
ISO14001/2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)、2004.02(システムカンパニー)
ISO9001/1995.10(ランプカンパニー拡大認証時)、1997.07(システムカンパニー)

●主な環境関連の取り組み
・電力モニターを生産棟に設置し、電力の使用状況が把握できるようにした
・給水監視システムを導入し、水使用状況が把握できるようにした
・ランプ検査装置を改良し、VOC消費量を大幅に削減
・缶・ペットボトルの新設自販機全てをヒートポンプ式とした

INPUT 項目		数値
	総エネルギー投入量(GJ)	49,534
	水資源(m^3)	57,065
OUTPUT 項目		**数値**
	温室効果ガス(トン-CO$_2$)	2,091
	NOx(kg)	67
	SOx(kg)	45
	総排水量(m^3)	57,065
	BOD(kg)	85
	COD(kg)	130
PRTR(届出)	クロロホルム(kg):大気	1,075
	:廃棄物	175
廃棄物	総排出量(kg)	99,862
	最終処分量(kg)	6,620
	資源有効利用率(%)	93.4

〒412-0038
静岡県御殿場市駒門1-90
■主要生産品目
超高圧UVランプ、液晶パネル関連装置、露光装置 など

ウシオライティング株式会社

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2003.01（2006.03に支店など5拠点を含め拡大認証）
ISO9001／2001.12
OHSAS18001／2004.09

●主な環境関連の取り組み
・クリーンルームの運転の適正化、設備更新時の省エネ機器化を実施（電力使用量前年度比2%削減）
・鉛フリー蛍光ランプ、省電力型ハロゲンランプなど環境配慮型製品を開発し、発売
・周辺緑化整備活動を町や工業団地とともに推進
・水配管の漏水点検など節水活動を実施、浄化槽の高度処理改善中

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量（GJ）		50,975
水資源（m^3）		24,865
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス（トン-CO_2）		1,966
NOx（kg）		72
SOx（kg）		0
総排水量（m^3）		24,865
BOD（kg）		61
COD（kg）		109
PRTR（届出）	モリブデン（kg）：廃棄物	114
廃棄物	総排出量（kg）	166,790
	最終処分量（kg）	43,160
	資源有効利用率（%）	74.1

〒679-2215
兵庫県神崎郡福崎町
西治860-22
■主要生産品目
照明用ハロゲンランプ、メタルハライドランプ、特殊ヒーター、ファイバー光源装置 など

筑波ウシオ電機株式会社

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2005.04
ISO9001／2004.03

●主な環境関連の取り組み
・中和槽など環境施設を更新
・スクラバー施設を設けて、排水処理と作業環境の改善実施
・「酸アルカリ中和処理汚泥」と「真空ポンプ等の廃油」のリサイクルを進めた
・工場の環境関連施設からの汚染予防のために、ハザードマップを作成し、点検監視を実施

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量（GJ）		11,203
水資源（m^3）		1,498
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス（トン-CO_2）		437
NOx（kg）		3
SOx（kg）		0
総排水量（m^3）		1,497
BOD（kg）		3
COD（kg）		0
PRTR（届出）	――	–
廃棄物	総排出量（kg）	12,908
	最終処分量（kg）	0
	資源有効利用率（%）	100.0

〒300-2635
茨城県つくば市東光台5-2-1
■主要生産品目
メタルハライドランプ、クセノンフラッシュランプ、水冷パルスドランプ など

兵庫ウシオライティング株式会社

●EMSなどの認証状況
EMS構築中

●主な環境関連の取り組み
・工場環境整備活動として毎週、全員参加の4S活動を実施
・コンプレッサー室のレイアウトを工夫し、冷却効率を向上させ、稼動ファンを削減

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量（GJ）		5,681
水資源（m^3）		1,041
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス（トン-CO_2）		393
NOx（kg）		43
SOx（kg）		0
総排水量（m^3）		1,041
BOD（kg）		–
COD（kg）		–
PRTR（届出）	――	–
廃棄物	総排出量（kg）	2,969
	最終処分量（kg）	0
	資源有効利用率（%）	100.0

〒671-2517
兵庫県宍粟市山崎町生谷159-1
■主要生産品目
店舗照明用ハロゲンランプ、舞台照明用ハロゲンランプ、舞台照明用コイルマウント など

日本電子技術株式会社

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2004.08
ISO9001／1999.05

●主な環境関連の取り組み
・仕入先さまと協力し、通い箱化などにより、納品用ダンボールを削減
・近隣住民へサステナビリティレポートを配布し環境活動について説明。併せて環境調査を実施（クレームゼロ）
・ボランティア活動を推進し、県民参加の森作りや植栽に参加

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量（GJ）		877
水資源（m^3）		288
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス（トン-CO_2）		38
NOx（kg）		14
SOx（kg）		0
総排水量（m^3）		276
BOD（kg）		–
COD（kg）		–
PRTR（届出）	――	–
廃棄物	総排出量（kg）	4,865
	最終処分量（kg）	0
	資源有効利用率（%）	100.0

〒229-0021
神奈川県相模原市
高根2-2-27
■主要生産品目
映像信号切替え装置、PHOBOS基板（映像用）、TAB検査装置用カメラ基板 など

USHIO AMERICA, INC.〈UAI〉

※数値・取り組みに関しては、USHIO CANADA, INC.〈UCI〉を含む

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2007.11（UAI本社、アーバイン工場）
ISO14001／2008.3（UAIオレゴン工場）
ISO9001／2005.10（UAIオレゴン工場）

●主な環境関連の取り組み
・ISO14001の監査を受審し、認証取得
・高効率照明器具に交換し、電力消費量を削減（年間約51,000kw）
・コピー用紙削減やリサイクルなどの活動を実施
・危険物質取り扱いトレーニング（HAZMAT）を受けた受講者が、社内トレーニングを実施

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量（GJ）		29,160
水資源（m^3）		24,867
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス（トン-CO_2）		1,211
NOx（kg）		78
SOx（kg）		0
総排水量（m^3）		24,867
BOD（kg）		–
COD（kg）		–
廃棄物	総排出量（kg）	166,854
	最終処分量（kg）	108,001
	資源有効利用率（%）	35.3

5440 Cerritos Avenue,
Cypress, CA 90630, U.S.A.
■主要生産品目
超高圧UVランプ、OA機器用メタルハライドランプ、ハロゲンランプ など

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.〈CDSU〉

※数値・取り組みに関しては、CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.〈CDSC〉Event Audio Visual Group〈EAVG〉を含む

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2007.06（CDSC）
ISO14001／2007.11（CDSU本社）
ISO9001／1987.06（CDSC）

●主な環境関連の取り組み
・ISO14001の認証取得活動をカナダ、アメリカの両サイトで実施し、取得
・紙や木製パレットの再利用に取り組み、リサイクル率はほぼ倍増
・省エネ活動や設備停止を実施（使用電力9.6%削減）
・緊急止水弁や防音設備などを設置
・パウダーセパレーターを設置

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量（GJ）		74,224
水資源（m^3）		8,035
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス（トン-CO_2）		2,895
NOx（kg）		790
SOx（kg）		3
総排水量（m^3）		4,873
BOD（kg）		–
COD（kg）		–
廃棄物	総排出量（kg）	143,936
	最終処分量（kg）	48,950
	資源有効利用率（%）	66.0

10550 Camden Drive,
Cypress, CA 90630, U.S.A.
■主要生産品目
劇場用映写システム、光源関連機材、デジタル映像機器、各種プロジェクタ等の開発・製造 など

BLV LICHT- UND VAKUUMTECHNIK GmbH〈BLV〉

※数値・取り組みに関しては、Dipl.-Ing.Reinhold Eggers GmbH〈EGG〉Natrium S.A.〈NSA〉を含む

●EMSなどの認証状況
EMS構築中
ISO9001／1991.12

●主な環境関連の取り組み
・ランプライフテストで発生する熱を倉庫棟などの暖房に有効利用し、燃料消費の削減
・水銀フリー高圧放電ランプの開発

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量（GJ）		54,467
水資源（m^3）		3,707
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス（トン-CO_2）		2,097
NOx（kg）		115
SOx（kg）		1
総排水量（m^3）		3,707
BOD（kg）		–
COD（kg）		–
廃棄物	総排出量（kg）	121,441
	最終処分量（kg）	12,890
	資源有効利用率（%）	89.4

Münchner Straβe 10,85643
Steinhöring, Germany
■主要生産品目
メタルハライドランプ、照明用ハロゲンランプ、ヒータ用ハロゲンランプ、高圧UVランプ など

USHIO（SUZHOU）CO., LTD.〈USZ〉

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2005.03
ISO9001／2005.03
OHSAS18001／2006.05

●主な環境関連の取り組み
・グリーン調達活動として、仕入先の化学物質管理体制の監査を実施

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量（GJ）		27,745
水資源（m^3）		16,130
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス（トン-CO_2）		1,314
NOx（kg）		1
SOx（kg）		0
総排水量（m^3）		12,753
BOD（kg）		–
COD（kg）		–
廃棄物	総排出量（kg）	9,846
	最終処分量（kg）	–
	資源有効利用率（%）	–

6, Yuyang Street,
Suzhou New District,
Suzhou, P.R.C.
■主要生産品目
OA機器用ハロゲンランプ、希ガス蛍光ランプ、プロジェクタ用光源・装置 など

USHIO PHILIPPINES, INC.〈UPI〉

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2004.06
ISO9002／2000.12

●主な環境関連の取り組み
・休憩中の消灯の徹底などの省エネ活動により、CO_2削減
・RoHS対応検査のために分析装置を導入し、材料受け入れ態勢を充実

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		23,555
水資源(m^3)		226,999
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		1,041
NOx(kg)		0
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		226,999
BOD(kg)		–
COD(kg)		–
廃棄物	総排出量(kg)	49,951
	最終処分量(kg)	13,979
	資源有効利用率(%)	72.0

First Cavite Industrial Estate, Barangay Langkaan, Dasmarinas, Cavite, Philippines
■主要生産品目
照明用・OA機器用ハロゲンランプ など

TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.〈TULI〉

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2004.04
ISO9001／2003.03(ISO9002／1997.07USHIO TAIWAN, INC.として取得後、分社の後規格変更)

●主な環境関連の取り組み
・工場の省電力の取り組みを行い、2008年4月度は2006年同月比10%の電力使用量削減
・4Sパトロールと評価を行い、"4Sの見える化"を実施
・毎週末の工場内一斉清掃、隔週での社屋周辺の清掃で社内外のクリーン化の実施

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		18,907
水資源(m^3)		3,636
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		738
NOx(kg)		42
SOx(kg)		1
総排水量(m^3)		3,636
BOD(kg)		–
COD(kg)		–
廃棄物	総排出量(kg)	12,052
	最終処分量(kg)	7,887
	資源有効利用率(%)	34.6

No.82, Taiho Rd., Chupei, Hsinchu Hsien, Taiwan, R.O.C.
■主要生産品目
舞台照明用ハロゲンランプ、一般照明用ハロゲンランプ、メタルハライドランプ など

非生産サイト

ウシオ電機株式会社 本社

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2004.12

●主な環境関連の取り組み
・電力使用量を2006年度比15%削減
・グループ合同内部環境監査員養成教育に参加し、内部環境監査員の割合が本社勤務者の17.6%
・オフィス環境活動のメールマガジンを発行

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		1,850
水資源(m^3)		–
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		86
NOx(kg)		82
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		–
廃棄物	総排出量(kg)	18,286
	最終処分量(kg)	393
	資源有効利用率(%)	97.9

〒100-8150
東京都千代田区
大手町2-6-1
■主要業務
ウシオ電機およびウシオグループ統括業務 など

ウシオ電機株式会社 東京営業本部

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)
ISO14001／2004.02(システムカンパニー)

●主な環境関連の取り組み
・ショートアークUVランプリサイクルシステムの顧客契約展開の推進拡大活動
・電力や廃棄物、コピー用紙の使用状況について毎月分析し、削減

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		647
水資源(m^3)		–
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		27
NOx(kg)		0
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		–
廃棄物	総排出量(kg)	6,873
	最終処分量(kg)	449
	資源有効利用率(%)	93.5

〒100-8150
東京都千代田区
大手町2-6-1
■主要業務
光源および光源ユニット・装置などの販売

ウシオ電機株式会社 大阪支店

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)

●主な環境関連の取り組み
・OA機器の統廃合による台数減と省電力機の導入
・PDF利用による電子化、両面印刷や縮小印刷で用紙削減
・蛍光灯の常時三割消灯、昼休み追加部分消灯で電力削減
・ハイブリッドエコカーの利用

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		230
水資源(m^3)		–
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		10
NOx(kg)		3
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		–
廃棄物	総排出量(kg)	754
	最終処分量(kg)	0
	資源有効利用率(%)	100.0

〒532-0011
大阪府大阪市淀川区
西中島5-13-9
■主要業務
光源および光源ユニット・装置などの販売

株式会社 ジーベックス

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2008.01

●主な環境関連の取り組み
・ISO14001認証取得し、営業業務、機器の設置業務の活動に展開
・電気使用量削減(6.3%削減)
・シネマ用映写関連機器の設置業務では、電材などの選定で環境配慮型製品を優先する活動を実施
・お客さまでの設置業務においても、廃棄物処理についての環境活動を実施

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		994
水資源(m^3)		–
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		48
NOx(kg)		64
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		–
廃棄物	総排出量(kg)	4,472
	最終処分量(kg)	2,670
	資源有効利用率(%)	40.3

〒104-0032
東京都中央区
八丁堀4-9-4西野金陵ビル
■主要業務
映画館用映写機材、映写機用クセノンランプ、映画用音響機材などの販売

USHIO EUROPE B.V.

※取り組み・数値に関してはUSHIO FRANCE S.A.R.L.〈UFS〉、USHIO DEUTSCHLAND GmbH〈UD〉、USHIO U.K., LTD.〈UUK〉を含む

●EMSなどの認証状況
EMS構築中

●主な環境関連の取り組み
・休憩時間の消灯、ゴミの分別などの活動を実施
・欧州の環境規制情報を調査し、グループ各社へ情報提供

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		2,132
水資源(m^3)		2,772
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		58
NOx(kg)		0
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		2,772
廃棄物	総排出量(kg)	2,076
	最終処分量(kg)	2,076
	資源有効利用率(%)	0.0

Sky Park, Breguetlaan 16-18, 1438BC Oude Meer, the Netherlands
■主要業務
超高圧UVランプ、クセノンショートアークランプ、ハロゲンランプ、光システム製品 などの販売

USHIO HONG KONG LTD.

※数値・取り組みに関しては、USHIO LIGHTING (HONG KONG) CO., LTD.〈ULHK〉を含む

●EMSなどの認証状況
ISO14001／2008.04

●主な環境関連の取り組み
・ISO14001の認証取得
・物流・技術センターの空調機をインバータ式の省エネ機種に更新

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		4,997
水資源(m^3)		2,298
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		207
NOx(kg)		13
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		2,163
廃棄物	総排出量(kg)	125,549
	最終処分量(kg)	109,534
	資源有効利用率(%)	12.8

Tower6, 31/F, Suites 3113-14, The Gateway, 9 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong
■主要業務
OA機器用ハロゲンランプ、希ガス蛍光ランプおよびユニット、プロジェクタ用光源 などの販売

国内　海外

USHIO TAIWAN, INC.

●**EMSなどの認証状況**
ISO14001／2006.02

●**主な環境関連の取り組み**
・ISO14001更新審査を受審査し合格
・一般ゴミ、コピー用紙の減量活動、昼休み消灯活動を実施
・緊急事態対応訓練を実施

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		3,908
水資源(m^3)		3,647
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		208
NOx(kg)		409
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		3,647
廃棄物	総排出量(kg)	2,028
	最終処分量(kg)	643
	資源有効利用率(%)	68.3

#31, 10/F, Sec.1
Chung-Shiaw E.Road,
Taipei, Taiwan, R.O.C.
■**主要業務**
超高圧UVランプ、ハロゲンランプ、各種露光装置、光学装置 などの販売

USHIO KOREA, INC.

●**EMSなどの認証状況**
ISO14001／2006.12

●**主な環境関連の取り組み**
・廃棄物の分別廃棄や印刷用紙の裏面利用、水道水節約の徹底
・ISO14001WORKSHOP、環境教育などの実施

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		4,659
水資源(m^3)		834
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		298
NOx(kg)		912
SOx(kg)		1
総排水量(m^3)		834
廃棄物	総排出量(kg)	767
	最終処分量(kg)	213
	資源有効利用率(%)	72.2

Dukheung Bldg.,
14/F, 1328-10, Seocho-dong,
Seocho-ku, Seoul, Korea
■**主要業務**
超高圧UVランプ、クセノンショートアークランプ、各種露光装置、光学装置 などの販売

USHIO SINGAPORE PTE LTD.

●**EMSなどの認証状況**
ISO14001／2007.12
ISO9001／2007.12

●**主な環境関連の取り組み**
・ISO14001認証取得活動と併せてISO9001認証も取得
・物流業者に依頼し、OAヒーターランプ用梱包外装材、パレットなどの再利用100%実施

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		675
水資源(m^3)		734
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		30
NOx(kg)		21
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		281
廃棄物	総排出量(kg)	300
	最終処分量(kg)	300
	資源有効利用率(%)	0.0

#1, Jalan Kilang #05-01,
Dynasty Industrial Bldg.,
Singapore 159402
■**主要業務**
超高圧UVランプ、クセノンショートアークランプ、ハロゲンランプ、光システム製品 などの販売

USHIO SHANGHAI, INC.

●**EMSなどの認証状況**
EMS構築中

●**主な環境関連の取り組み**
・環境委員会を発足させ、2008年度中のISO14001認証取得を目標に活動推進

INPUT		
項　目		数　値
総エネルギー投入量(GJ)		174
水資源(m^3)		–
OUTPUT		
項　目		数　値
温室効果ガス(トン-CO_2)		7
NOx(kg)		0
SOx(kg)		0
総排水量(m^3)		–
廃棄物	総排出量(kg)	3,410
	最終処分量(kg)	–
	資源有効利用率(%)	–

HSBC Tower, 10/F, 1000
Lujiazui Ring Road,
Pudong New Area, Shanghai,
200120, P.R.C.
■**主要業務**
半導体・液晶用光源・装置、映画用光源、照明用光源などの販売

USHIOサステナビリティレポート2008を読んで

株式会社FEM 代表取締役
山口 真奈美

持続可能な社会を目指すために、世界では今何が求められ、企業また一個人として何をすべきなのか。目指すべきビジョンと活動について、ウシオグループならではの技術と企業理念・行動指針や成果が、さまざまな角度から読み取れる報告書となっています。

CSR・経済性報告からはじまりますが、報告の導入としてまずCSRの考え方を示し、昨年同様Q&Aを活用しながら伝えたいコンテンツが明確に示されています。そして内部統制のシステム構築や海外投資家訪問など、誠実且つコミュニケーションを重んじた透明性ある姿が伺えます。さらにデジタルシネマ普及への取り組みなど、国内外での積極的な活動も見受けられ、中期ビジョンの重点事業戦略でもある「環境・資源を念頭に置いた事業展開」が随所に反映され、世界への貢献の多角的なアプローチを試みている点が評価できます。

社会性報告では、階層別研修などコミュニケーションと教育の充実を図るさまざまな制度、「活動の現場から」の声、地域社会活動に見られる社員の多岐に渡る活躍などから、一人ひとりの能力を重んじ個人の発展を企業の発展と捉え、多様性を生かしながら専門性を掘り下げていく姿勢が読み取れます。

また、「お客さま満足度の数値管理」を海外拠点へと広げることにより、既に活動されているグループ会社の取り組みが、さらに多様性を保ちつつ一体感が強化されることが期待できます。一方国内ではサポート残件ポイントの2006年度の大幅な削減から、2007年度には残件件数は全般的に一見少ないものの、より減少へと導きフォローを強化していく必要があるでしょう。

さらに社員に対する基本姿勢として「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させる」とありますが、職場環境の整備、制度の利用者数などは、施策や目標値を示すことによって、より一層目標の実現へとつながるのではないでしょうか。

環境性報告では、昨年に比べさらに環境負荷などの数値化と推移が明確に示されており、方向性としても具体的になっており評価できます。そして循環型・低炭素社会へと目指す環境ビジョンについて、「第2期ウシオ環境行動計画目的・目標」の達成に向けて、委員会の活躍と今後の成果が期待できると言えるでしょう。

また、環境経営度を自己評価させる環境マネジメント教育をはじめ、当事者意識を持たせるような仕組み、「スーパーグリーン製品」などの環境配慮型製品と全体のライフサイクルを考えた取り組み、ECO-SYS（環境経営情報システム）の活用による環境会計の効果と比較など、「見える化」をより応用した形で事業内部や教育に反映され、一人ひとりの行動がウシオグループ全体の取り組みへと直結しています。一方、「環境に配慮した事業活動」の実績が今一歩とありますが、その対策とCO_2削減など改善すべき内容について原因と結果について分析もされており、さらなる検討と取り組みがなされることでしょう。

全体を通じて環境と経営の一体化を目指す企業として、グループの活動やパフォーマンスが具体的に織り込まれており、自主的な基準を設定し環境負荷の低減に積極的に取り組むなど、昨年からさらに新しい試みとさらなる努力がなされ、グループ一丸となって取り組んでいる姿勢が伺えます。

世界に広がるグローバル企業として、「共通の価値観をつくること」への姿勢は非常に重要だと思います。そして日本の環境先進性を生かし、まさしく生物多様性の危機が騒がれる昨今、世界の多様性を認めて貢献するウシオグループの活動は求められる姿であり、この地球上で起こっているさまざまな課題を乗り越え、持続可能な社会への構築に大きな役割を担われることを今後も期待しております。

山口真奈美 氏　プロフィール
環境教育・環境関連事業・審査監査などの業務及び研究を手がける。
株式会社FEM代表取締役。Control Union Certifications Japan代表。
Control Unionにおける認証審査業務（有機JAS・FSC・HACCP・GOTS・Organic Exchange等）は、
有機農産物・森林・繊維・バイオマス・品質管理システムなど分野が多岐にわたる。
経済学修士（環境経済学）・学術修士（環境科学）
NPO法人 国産材 理事
NPO法人 エコタウンしながわ 理事
NPO法人 エコ・エコノミー協会 理事
有限責任事業組合 ビジネス推進機構 理事長

第三者意見を受けて

ウシオ電機株式会社
取締役 環境担当　牛尾 志朗

この度、株式会社FEM 代表 山口 真奈美様に、「サステナビリティレポート2008」に対して昨年に引き続き貴重なご意見をいただきましたことに、感謝申し上げます。

昨年に比べ、環境負荷の数値化と推移が明確に示されている、方向性も具体的になっているとご評価いただいたことは、進歩が自覚でき、これからの取り組みの励みとなるものです。

社会性報告では、社員教育や職場制度の利用促進の施策、お客さま「満足度」活動の一層の強化など、環境性報告では、CO_2削減へのさらなる取り組みなど、課題や進めるべき方向性についてのご指摘に応えられるよう取り組んでまいります。

さて、当社におきまして2008年度は、第2期環境行動計画の中間年として折り返し地点となります。体制強化や効果的な施策の実行によって目標の達成を目指すとともに、これまでの実績を評価し、時代にあったビジョンを描くことにより、新たな行動計画目標の策定に向かいます。

「サステナビリティレポート2008」を読んでいただきましたみなさまに、これまで同様、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ステークホルダーの方々とのコミュニケーションを糧に、経済・社会・環境の三枚の葉が成長し続けるよう、グループ一丸となって進んでまいります。

編集方針

ウシオグループの環境報告について、これまで2003年度に事業所単独でのサイト環境レポート発行を皮切りに、翌年度にはウシオ電機全社の環境活動を「環境報告書2004」にまとめ報告。さらに2005年度では、環境側面に加え、経済側面、社会側面の活動報告も加えたサステナビリティレポートに発展させました。この「USHIOサステナビリティレポート2008」は、2007年度に続きサステナビリティレポートとして4回目の発行となります。

毎年、掲載内容と報告範囲を一歩一歩、拡充・充実させてきました。昨年度のレポートより「連結環境経営対象範囲」(P41参照)と定めた国内外のグループ会社全てを網羅し、また、CSR報告も充実させ発刊しました。写真・フロー図・データでの記載を増やし、当社の取り組み姿勢や活動内容をご理解いただきやすいレポート制作を心がけました。各項目で、Q&A方式(問いかけに答える記載構成)を採用し、読者に少しでもわかりやすいページ構成の工夫をしております。そして、今年度は報告スタイルの継続性や経過過程を大切にすることはもちろん、より多くのステークホルダーの方々に、より多くの活動を、より長い期間継続してお読みいただくことを念頭に構成。さらにこれまでいただいた貴重なご意見を、できる限り多く反映させられるよう編集しました。

編集にあたっては、次のガイドラインを参考にしております。
・環境省「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」
・GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」

ウシオグループの活動を象徴する「3色の葉」

2005年度版「サステナビリティレポート」から、表紙に採用している「3色の葉」。これは「光の三原色」と環境の象徴である「若葉」をモチーフに、サステナビリティレポートの3つの要素、「経済性報告」(レッド)、「社会性報告」(ブルー)、「環境報告」(グリーン)をデザインしたものです。3色それぞれの葉が、毎日の地道な活動によってすくすく成長し、大きな幹を創りだすことを目指しています。

本レポートは、ステークホルダーの方々とウシオとの相互のコミュニケーションを図るツールとして、みなさまのご意見や、ご感想をいただき今後の改善活動に活かしていく所存です。アンケートを添付しておりますので、どうぞご利用いただきますようお願いいたします。

会社概要 (2008年4月1日現在)

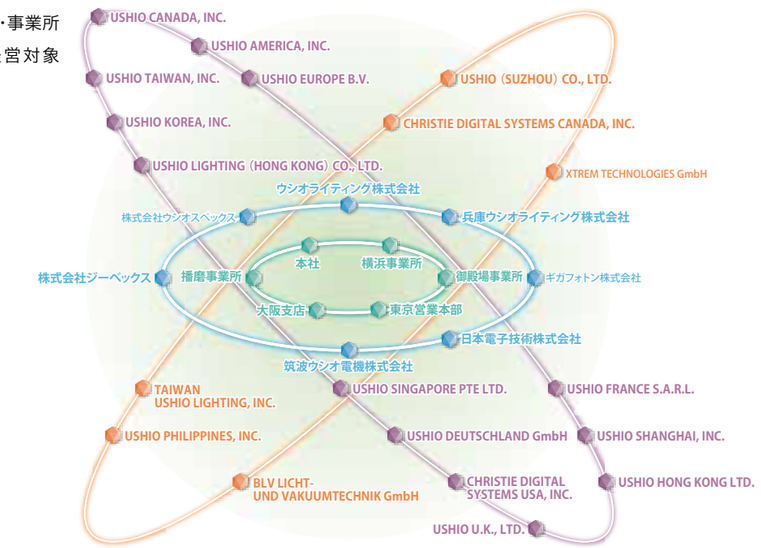
設立	1964年(昭和39年)3月
資本金	19,556,326,316円
役員 (2008年6月26日現在)	代表取締役会長　牛尾 治朗
	取締役副会長　田中 昭洋
	代表取締役社長　菅田 史朗
	取締役　後藤 学
	取締役　大島 誠司
	取締役　多木 正
	取締役　牛尾 志朗
	取締役　多田龍太郎
	取締役　伴野 裕明
	常勤監査役　四分一 直
	常勤監査役　中一 進
	常勤監査役(社外)　物江 直
	監査役(社外)　服部 秀一
	監査役(社外)　麻生 紘二

事業所一覧	本社	東京都千代田区
	播磨事業所	兵庫県姫路市
	横浜事業所	神奈川県横浜市
	御殿場事業所	静岡県御殿場市
	東京営業本部	東京都千代田区
	大阪支店	大阪府大阪市
従業員数 (2008年3月31日現在)	ウシオ電機本体	1,681名
	国内グループ計	528名
	海外グループ計	2,472名
	合計	4,681名

■ 主要グループ・ネットワーク

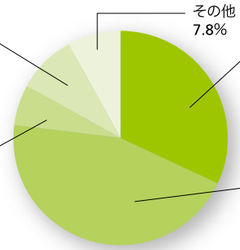
表記が太文字のウシオ電機本社・支店・事業所およびグループ会社は「連結環境経営対象範囲」です。

- ウシオ本体
- 国内主要グループ
- 海外主要販売グループ
- 海外主要生産グループ



■ 事業概要 (写真は一部の製品です)

ウシオの市場分野別売上高構成比(第45期)



照明分野 9.1%

デジタルライティングシステム「DL-2」

セラミックメタルハライドランプ「U-ONE」

OA分野 6.0%

コピー機用希ガス蛍光ランプ

トナー定着用ハロゲンランプ

エレクトロニクス分野 32.2%

TAB露光装置

液晶パネル貼り合わせ用紫外線照射装置

映像・画像分野 44.9%

デジタルシネマ映写機「CP2000」

データプロジェクタ用高輝度放電ランプ